

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	心理学の歴史と方法 本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴェント）、ヴェント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）	
	第2回	脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害	
	第3回	心の発達 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。 key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学	
	第4回	発達障害 平成19年度から全国で特別支援教育が開始され、ここ数年の間に発達障害に関する知識が急速に広まっている。本講義では代表的な発達障害であるAD/HD、SLD、自閉スペクトラム症の特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 key words：発達障害、AD/HD、SLD、自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育	
	第5回	感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚	
	第6回	学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。 key words：古典的（レスポデント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデュラ）	
	第7回	記憶と思考 感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。 key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論	
	第8回	動機づけと情動 人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるものうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。 key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理	
	第9回	性格 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちには、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。講義の後半では、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する。 key words：類型論、特性論、性格の5因子モデル、性格検査の信頼性と妥当性	
	第10回	対人関係と集団 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知、対人感情、関係の維持	
	第11回	臨床心理学（1） 「精神分析」 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス	
	第12回	臨床心理学（2） 「分析心理学」	

	<p>分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。</p> <p>key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析</p> <p>第13回 臨床心理学（3） 「クライアント中心療法」</p> <p>カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライアント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。</p> <p>key words：クライアント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件</p> <p>第14回 心理療法（1） 「コラージュ療法」演習</p> <p>心理療法とは、「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である。本講義では、心理療法の中でも「芸術療法」と呼ばれるものの1つである「コラージュ療法」を体験する。 key words：心理療法、芸術療法、コラージュ療法</p> <p>第15回 心理療法（2） 「箱庭療法」</p> <p>箱庭療法はローエンフェルトによって考案され、その後、カルフがユングの考えを導入して発展させ、河合隼雄によって我が国へ導入され、さらに世界中に広がった技法である。本講義では、箱庭療法の分析方法を紹介し、それを応用し、自らが作成したコラージュについて検討を行う。</p> <p>key words：コラージュ療法、箱庭療法、空間象徴</p>
科目の目的	<p>心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 2. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】教育学，教育心理学，生命倫理，哲学，人間と宗教，社会学，生活文化と医療，大学の学び入門，大学の学び－専門への誘い－，多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ，生理学Ⅱ，医学概論，公衆衛生学，臨床医学特殊講義，老年医学，カウンセリング，臨床心理学，医療統計学，社会福祉・地域サービス論</p>
成績評価方法・基準	<p>定期試験（80％）に毎回の講義後に作成する小レポート等の評価（20％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>
オフィス・アワー	<p>月・水・木・金の昼休み（1号館305研究室もしくは1号館・4号館学生相談室）</p>
国家試験出題基準	<p>なし</p>
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
黒羽 正見			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 教育学オリエンテーション 本講義を貫くキーワード説明（暗黙知、薫習、自己認識、気付き、自己更新）・講義方法と評価</p> <p>第2回 日本の現代的な教育課題を考える 一枚の折り紙から鶴を折る過程に埋め込まれているものは何か</p> <p>第3回 学校の中で営まれる教育（授業）について考える 事例の中の子どもにかかわる教師の教育行為からみえるものは何か</p> <p>第4回 学校社会の中の教師を考える（1） 工藤先生と22人の子供たちのビデオ視聴と自己認識としての自分考えをもつ。</p> <p>第5回 学校社会の中の教師を考える（2） 北海道の工藤先生と子供たちの織りなす教育の原風景とは何か</p> <p>第6回 学校という組織を考える 教室空間に見立てた大きく膨らんだ袋の中に存在するものは何か</p> <p>第7回 西洋の教育思想から教育方法を考える。 直観と体験、静けさと沈黙、個性化と社会化</p> <p>第8回 日本の道徳教育を考える（1） 授業「道徳の時間」の基本的理解</p> <p>第9回 日本の道徳教育を考える（2） 次期学習指導要領の中の「道徳の教科化」ははじめ防止に効果的か（ビデオ視聴）</p> <p>第10回 日本の道徳教育を考える（3） 次期学習指導要領の中の「道徳の教科化」ははじめ防止に効果的か</p> <p>第11回 情報化・競争社会の中の子どもと学校を考える 華やかな情報化社会や競争社会に潜む落とし穴（暗黙部）とは何か</p> <p>第12回 家庭・学校・地域社会の変化と教育を考える 家庭・学校・地域社会の3つから、今あなたが一番実感する変貌は何か</p> <p>第13回 望ましい集団活動を考える 谷川俊太郎「生きる」の群読から学んだことは何か</p> <p>第14回 社会教育と生涯学習を考える 学び続ける、地球市民として生きるためには</p> <p>第15回 まとめ 自分の専門領域から自分にとってのより良い教育を考える</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた人間性と豊かな教養を有している。 ・学習内容について、深い認識を有している。 ・実践的な指導力を有している。 ・現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について確かな見識を有している。 <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の教育体験を対象化して、客観的にとらえることができる。 ・教育の世界の経験や問題から受けた示唆をもとに、自分の専門領域に引き寄せて自身の考えを深めていくことができる。 ・教育の世界で蓄積されたきた「人間を学ぶ主体として成長させるための智慧」について、その意義や現代的課題を述べることができる。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	①毎時間の課題に対する振り返りシートの内容、②課題レポート、③毎回の課題解決のためのグループ学び合い 総合点は、①が30%、②が30%、③が40%である。課題レポートシートは、精査・コメントを付し、毎時間毎に返却するところを通して、個人の学びを一層深めるような方法をとる。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について、予習・復習を4時間行うことを目安とする。
教科書・参考書	教科書：「学際型現代学校教育概論」シナジェティックス研究会 著（金子書房） 参考書：なし
オフィス・アワー	10時半から11時（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義を中心とし、必要に応じて随時ワーク（個別およびグループ）を取り入れる。		
授業計画	第1回	教育心理学とは 教育心理学は「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」などの幅広い分野を含む、教育のための心理学である。本講義では、教育心理学の歴史と概要を学ぶ。	
	第2回	子どもの認知発達 ピアジェの理論を参照しながら人の認知発達について学び、認知発達の過程を通して幼児期、児童期、青年期に対する教育的関わり方の違いや、学校教育について考える。 key words：感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、心の理論	
	第3回	学ぶことと考えること 「学ぶ」ということは、新しい概念がそれまで持っていた知識のネットワークの中に組み込まれ、知識がより構造化していくことである。本講義では知識を活用し、問題を解決していく方略について学習する。 key words：宣言的知識、手続き的知識、アルゴリズム、ヒューリスティック、メタ認知	
	第4回	学級という社会 人が最初に経験する「学校」という組織の特殊性とそこで起こる心理的事象について学ぶ。 key words：ピグマリオン効果、P-M理論、ソシオメトリックテスト、ゲスフーテスト	
	第5回	知能とその測定 知能とは、目的的に行動し、合理的に行動し、環境を能率的に処理する総合的な能力である。知能に関する理論とその測定方法について学習する。 key words：CHC理論、田中ビネーV、WISC-IV、WAIS-III	
	第6回	青少年の抱える問題（1）いじめ 青少年の抱える問題として“いじめ”を取り上げ、その構造や社会的背景について考える。	
	第7回	青少年の抱える問題（2）不登校 青少年の抱える問題として“不登校”を取り上げ、不登校の背景について理解を深め、その支援について考える。	
	第8回	青少年の抱える問題（3）非行 青少年の抱える問題として“非行”を取り上げ、非行という問題について青少年や社会環境などの複数の視点から考える。	
	第9回	子どもの認知発達と太田ステージ（1） 太田ステージとは、ピアジェの発達理論を参考に、子どもの発達段階をとらえやすくするために、いくつかの発達の節目をとらえてステージ分けしたものである。本講義では生まれて間もなくから1歳半くらいまでの乳幼児期に相当するStage Iの特徴と療育について学習する。 key words：模倣、指さし、おもちゃ遊び	
	第10回	子どもの認知発達と太田ステージ（2） 一般的な子どもの発達で見ると、1歳半から2歳くらいに相当するStage IIの特徴と療育について学習する。 key words：シンボル機能の芽生え、名称による物の指示	
	第11回	子どもの認知発達と太田ステージ（3） 物には名前があることがはっきりとわかるようになった段階だが、関係の中で物事をとらえることができず、思考の柔軟性がないStage III-1の特徴と療育について学習する。 key words：用途による物の指示、経験に沿ったパターン	
	第12回	子どもの認知発達と太田ステージ（4） 一般的な子どもの発達で見ると、3歳から4歳くらいに相当するStage III-2の特徴と療育について学習する。 key words：概念形成の芽生え、大小比較	
	第13回	子どもの認知発達と太田ステージ（5） 一般的な子どもの発達で見ると、5歳から7歳くらいに相当するStage IVの特徴と療育について学習する。 key words：上下の空間関係、因果関係の理解	
	第14回	教育相談 子どもたちの健全な成長・発達の支援を目的とする、乳幼児期から青年期までを対象とした、教育の一環としての相談援助活動である教育相談について、事例を通して学習する。 key words：教育相談、カウンセリング	
	第15回	教育心理学の意義 これまでの講義を概観して教育心理学的な関わりや考え方について理解を深める。教育や他者との関わりについて考えていく。	
科目の目的	教育心理学は「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」などの幅広い分野を含む、教育のための心理学である。本講義では幼児、児童および生徒を教師が効果的に支援するために必要な心身の発達および学習の過程に関する基本事項を心理学的な観点から理解することを目的とし、教育心理学の基礎的な知識を学ぶ。 ディプロマポリシー：【知識・理解】		
到達目標	1. 教育心理学の基本的な知識を習得する。 2. 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程に関する基本事項を心理学的な観点から理解する。		

	3. 教育実践についての見解を深め、自分の意見を論じることができる。
関連科目	【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学び—専門への誘い—, 多職種理解と連携 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ, 生理学Ⅱ, 医学概論, 公衆衛生学, 臨床医学特殊講義, 老年医学, カウンセリング, 臨床心理学, 医療統計学, 社会福祉・地域サービス論
成績評価方法・基準	定期試験(80%)に毎回の講義後に作成する小レポートの評価(20%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1年次選択科目「心理学」受講者は、教科書第3章「こころの発達」、第5章「学習」の内容をよく理解しておくこと。 その他、準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書・参考書	【教科書】 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 (2015) 「やさしい教育心理学 第4版」 有斐閣アルマ 【参考書】 永井洋子・太田昌孝編 (2011) 「太田ステージによる自閉症療育の宝石箱」 日本文化科学社 山祐嗣・山口素子・小林知博編著 (2009) 「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房
オフィス・アワー	月・水・木・金の昼休み(1号館305研究室もしくは1号館・4号館学生相談室)
国家試験出題基準	なし
履修条件・履修上の注意	講義中の私語, スマートフォン・携帯電話の使用, 講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止します。注意しても止めない場合や, それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ, その回の講義の出席を認めない場合もあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>第1回 はじめに ―健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する― ①ライフスタイルと生活習慣病について ②適正体重の維持 ③日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう ④運動不足病としての生活習慣病 ⑤「運動基準」「運動指針」</p> <p>第2回 運動とスポーツの生理学① ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ①運動の持続と呼吸・循環器系 ②循環器の働きと血液の循環経路 ③運動に伴う呼吸・循環器系機能の変化</p> <p>第3回 運動とスポーツの生理学② ―ATPと運動・スポーツ― ①運動時の酸素利用 ②トレーニングによる呼吸・循環器系の適応</p> <p>第4回 運動とスポーツの生理学③ ―神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ― ①随意最大筋力を決めるもの ②身体運動にみられる筋と腱の相互作用 ③身体運動と神経機能</p> <p>第5回 運動とスポーツの生理学④ ―エネルギー代謝と運動・スポーツ― ①1日のエネルギー消費量と貯蔵エネルギー量 ②一過性運動時のエネルギー代謝 ③トレーニングによるエネルギー代謝の変化</p> <p>第6回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論① ―トレーニング概論― ①体力トレーニングの原理と原則</p> <p>第7回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論② ―瞬発系、持久力系、回旋系― ①エネルギー発現能力を高めるためのトレーニング</p> <p>第8回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論③ ―評価（アセスメント）― ①評価（アセスメント） ②コレクティブエクササイズ</p> <p>第9回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論④ ―アスリートトレーニング― ①一例（ケンブリッジ飛鳥）（目標まで3か月、週3回、1時間） ②ドローイン</p> <p>第10回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑤ ―筋肉とタンパク質― ①食事のアスリート度チェック ②栄養（タンパク質）チェック</p> <p>第11回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑥ ―筋肉とアミノ酸― ①アミノ酸とは ②BCAAについて ③グルタミンについて ④アルギニンについて ⑤クレアチンについて</p> <p>第12回 スポーツ心理① 他人のために自分ができること、目標設定とは？理想の自分とは？成功と失敗を振り返る、について考える。</p> <p>第13回 スポーツ心理② 起こり得る問題の対策、オープンウインド、について考える。</p> <p>第14回 スポーツ心理③ 気持ちをコントロールする、について考える。小テスト実施。</p> <p>第15回 スポーツ心理④ 1か月の目標設定、について考える。小テスト返却。レポート提出。</p>
科目の目的	<p>「健康と運動」、「老化と運動」に関しその維持と増進方法について、なぜ運動が重要なのかを学ぶ。特に有酸素運動と筋トレの効果は、心肺機能、呼吸器の向上、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減すること等を説明する。本講義では有酸素運動や、筋力トレーニングを体験しながらその効果をも医療従事者として、地域社会に発信できるよう基礎を学ぶ。</p> <p>またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定の考え方、情動の自己コントロールについて振り返り、起こり得る問題の対策を学習する。そして生涯にわたって専門分野を探索し、その発展に貢献できるよう考え方を学ぶ。</p>
到達目標	<p>「健康と運動」、「老化と寿命」等に関しその維持と増進方法について考えるにあたって、日常生活とスポーツ、正しい筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に着ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。</p>

関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	講義時間内にレポートを実施（50％）。小テスト（50％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、自分自身の健康や体力、栄養について振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店
オフィス・アワー	講義室または体育館で、講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	実技
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション オリエンテーションと班編成&トレーニング</p> <p>第2回 球技・トレーニング 腓腹筋、前脛骨筋等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第3回 球技・トレーニング RFDの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バasketボール</p> <p>第4回 球技・トレーニング 大臀筋、ハムストリングス等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第5回 体力測定 体力測定（長座体前屈、握力、背筋力、立ち三段跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、腹筋30秒、20m）、体力測定小テスト、レポート提出</p> <p>第6回 球技・トレーニング 体幹を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第7回 球技・トレーニング 大胸筋、小胸筋、三角筋を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第8回 球技・トレーニング 菱形筋、前鋸筋等の肩甲骨周辺筋群を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第9回 球技・トレーニング アイソトニック、アイソキネティック、アイソメトリックの考え方を中心とした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第10回 心肺持久力 20mシャトルラン、持久力小テスト、レポート提出</p> <p>第11回 球技・トレーニング アナトミートレインの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第12回 球技・トレーニング PNFストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第13回 球技・トレーニング バランストレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第14回 球技・トレーニング メディシングボールを使った筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第15回 球技・トレーニング ドローインと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p>
科目の目的	<p>運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングやストレッチを行い、体力をつけることを狙いとする。一人で簡単にできる筋力トレーニングやストレッチを行って、少しずつ無理なく、自分のペースでスポーツを楽しめるようにする。</p> <p>各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促す。</p> <p>各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指す。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設ける。</p>
到達目標	<p>①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。</p> <p>②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。</p> <p>③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。</p>
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	授業時間内に小レポートを実施（80%）。小テスト（20%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての体調管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、生活リズムを振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書

	「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育館で授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
金澤 秀嗣			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 予備考察：「自由と規範」 概論 本講の目的と講義計画とに関する説明 〈欠陥動物〉としてのヒト システムの〈意味〉</p> <p>第2回 神的自然法論 原罪・〈事物の本性〉と人間の自由：アウグスティヌス、トマス・アクィナス</p> <p>第3回 契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力：ホッブズ、ロック、ルソー</p> <p>第4回 カント批判哲学 ① 認識の枠組：〈世界〉はいかに在るか</p> <p>第5回 カント批判哲学 ② 徳論と法論：〈自己〉はいかに在るべきか</p> <p>第6回 ヘーゲルの観念論哲学 ① 「自然法論文」における近代自然法論批判と共同体論</p> <p>第7回 ヘーゲルの観念論哲学 ② イエナ精神哲学における相互承認論：〈愛〉と〈闘争〉</p> <p>第8回 ヘーゲルの観念論哲学 ③ 『精神現象学』における相互承認論：〈主と奴の弁証法〉</p> <p>第9回 ヘーゲルの観念論哲学 ④ 論理学と『法哲学綱要』の視座</p> <p>第10回 歴史法学の展開 法の基盤としての〈民族精神〉：サヴィニー</p> <p>第11回 世界精神の概念 個別の〈民族精神〉 vs. 〈世界法廷〉としての世界史</p> <p>第12回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ① 人権総説</p> <p>第13回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ② 文化相対主義・多文化主義・発展段階論</p> <p>第14回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ③ 事例研究：伝統文化 vs. 女性の権利</p> <p>第15回 講義の総括と展望</p>
科目の目的	<p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講では特に〈自由と規範〉をテーマに掲げ、法哲学・社会哲学の地平から個人と共同体の在り方について考察したい。</p> <p>講義は「授業計画」に則るものとする。但し、履修者の理解に鑑み、必要に応じて進捗を調整する場合もあるのでその旨留意されたい。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【態度】に該当する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の知的遺産たる哲学を学び、学士学位取得者が具備すべき知識を修得して教養を培う。 2. 1の営為を通じて、自分なりの人間観・社会観・世界観を確立する。 3. 1・2と併せて、高度の専門的職業人に必須とされる、論理的な思考方法を涵養する。
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 「法学（日本国憲法含む）」・「社会学」・「心理学」・「人間と宗教」等の諸科目と関連するテーマが適宜取り上げられる。
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 期末筆記試験（論述）の成績による（100％）。 ● 詳細については初回講義時に教場にて説明する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ● 次回講義のために Active Academy にて供せられている講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし（配布期間は原則として当該講義日までとする）、精読したうえで自分なりに要点・疑問点を摘示しておくこと。 ● 準備学習に必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）に基づいて行われる。 ● もっとも、哲学史を概観した書籍が手元にあると講義の理解も捗るものと思料される。 ● 参考書の一例として、岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）などが挙げられよう。 ● その他については、必要に応じて教場にて紹介したい。
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義の前後（場所：教場若しくは非常勤講師控室）

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	● 事前に Active Academy を経由して講義資料（レジユメ）をダウンロード・プリントアウトし、毎講義時に持参されたい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
尾形 大			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 〈変身〉する人間① ガイダンス カフカ「変身」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理</p> <p>第2回 〈変身〉する人間② カフカ「変身」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第3回 〈変身〉する人間③ カフカ「変身」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第4回 〈共存〉を許さない世界① 川上弘美「神様」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第5回 〈共存〉を許さない世界② 川上弘美「神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第6回 〈共存〉を許さない世界③ 川上弘美「神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第7回 〈傷〉ついていた心① 志賀直哉「城の崎にて」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第8回 〈傷〉ついていた心② 志賀直哉「城の崎にて」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第9回 〈傷〉ついていた心③ 志賀直哉「城の崎にて」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第10回 〈復讐〉される人間① 宮澤賢治「注文の多い料理店」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第11回 〈復讐〉される人間② 宮澤賢治「注文の多い料理店」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第12回 〈復讐〉される人間③ 宮澤賢治「注文の多い料理店」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第13回 〈戦争〉と文学① 太宰治「トカトントン」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第14回 〈戦争〉と文学② 太宰治「トカトントン」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第15回 〈戦争〉と文学③ 太宰治「トカトントン」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品の鑑賞を通じて、多様な社会・文化への幅広い視野と、他者に対する深い理解を得る。 2. 情報を正確に読み取り論理的に組み立てる能力を涵養する。 3. 複数回の小レポートの作成を通じて、自分の考えを他者に論理的に伝達する方法を学習する〔技能・表現〕。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不明な語句・表現を調べ、自分の力で教材を丁寧に読解する。 2. 1を踏まえて授業内で解説された作者情報や同時代状況、読みのポイントを整理する。 3. 2を補助線にして作品をあらためて読み直す。その上で各自の初読の感想がどのように更新されたかを確認する。
関連科目	芸術・哲学・社会学
成績評価方法・基準	授業内で課される小レポート（60%）＋1600字程度の期末レポート（40%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前＝配布された作品の黙読（0.5時間） ・授業後＝授業内容の復習（1.0時間）
教科書・参考書	教科書：使用しない（講義資料を授業内あるいはActive Academyを通して配布します）。
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
竹村 一男			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 宗教本質論 宗教とは何か 宗教の定義、類型と、宗教の研究分野について例をあげて解りやすく説明する。</p> <p>第2回 宗教本質論 宗教思想の変遷 過去の哲学、神学、心理学などの代表的な思想は、宗教をどのように解釈してきたか講述する。3大宗教について、その概要と現状に言及する。</p> <p>第3回 キリスト教概説 キリスト教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、中国仏教、チベット仏教にも言及する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第7回 日本の民俗宗教 祖霊信仰や神社神道などの日本の民俗宗教について、その歴史や事例、様々な儀礼や祭祀について、画像を交え説明する。</p> <p>第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教について、長い歴史と多数の信徒をもつユダヤ教とヒンドゥー教を中心に、その文化・歴史など画像を交えて講述する。</p> <p>第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、その文化・歴史など画像を交え説明する。日本に与えた影響などにも言及し講述する。</p> <p>第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。</p> <p>第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 主に比較宗教学、宗教社会学などの人文科学の視点からなされてきた研究学説について概説し、講師の研究事例も交えて講述する。</p> <p>第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について画像を中心に講述する。宗教史跡などの世界文化遺産にも言及する。</p> <p>第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題や、宗教動向、宗教と民族紛争の事例などについて講述する。</p> <p>第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。</p> <p>第15回 内村鑑三の宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は全講義のまとめを行う。</p>
科目の目的	<p>宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。人は、ある時は宗教に救済を求め、宗教を畏敬の対象とし、宗教に自らの死生観を求め。また、宗教にモラル以上の価値観を認める人達もいる。その一方では宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本授業においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに様々な宗教を取上げ、その教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・異文化・社会理解にも繋がる。講義を通して、受講生が各々の視点、切り口を通して人間と宗教、さらに文化・社会の理解に近づくことを目的とする。なお、医療現場においては宗教の救済観、死生観理解も大切であることを付記したい。【態度】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。 ● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。 ● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。
関連科目	哲学 心理学 社会学 芸術
成績評価方法・基準	定期試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自己学習15時間。講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある宗教分野に関する聖典や文学作品などに並行して、比較宗教学による文献の読解をお勧めする。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『ヒンドゥー教』森本達雄（中公新書）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂 絶版）、『現代医学と

	宗教』日野原重明（岩波書店）など。仏教、キリスト教関係なども多数あり。
教科書・参考書	教科書 使用しない。必要に応じてその都度、プリントを配付する。 参考書1 『法華経』坂本幸男・岩本裕訳注（岩波文庫） 参考書2 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各回のプリントを事前にアップロードしておきます。受講者はプリントアウトして授業に出席してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
東 晴美			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p> <p>第2回 ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p> <p>第3回 劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p> <p>第4回 観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p> <p>第5回 身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p> <p>第6回 ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第7回 能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p> <p>第8回 狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p> <p>第9回 歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p> <p>第10回 文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第11回 ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p> <p>第12回 アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や、歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p> <p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ：ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとって、芸術について学びます。まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。次に、西洋とは異なる独自の発展を遂げた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身</p>

	につけます。【態度】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。 ・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。 ・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。 ・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。
関連科目	社会学
成績評価方法・基準	授業中の小レポート（2回）各30%、期末教場レポート30%、授業中アンケートなど10%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。
教科書・参考書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)
オフィス・アワー	木曜日 14:00～14:40
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。

講義科目名称：法学（日本国憲法含む）

授業コード：4M011

英文科目名称：Law(the Constitution of Japan)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
道下 洋夫			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 法とは何かについて様々な角度から考える</p> <p>第2回 法と社会・法の種類 法と社会との関わりあい方について理解する</p> <p>第3回 法の特徴・法の目的 法にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する</p> <p>第4回 憲法1 憲法の基本理念について理解する</p> <p>第5回 憲法2 基本的人権（平等権、受益権、平和的生存権）について理解する</p> <p>第6回 憲法3 基本的人権（自由権、社会権、包括的基本権）について理解する</p> <p>第7回 憲法4 統治機構（三権分立、地方自治）について理解する</p> <p>第8回 民法1 債権とは何か、契約とは何か、どんな契約があるかについて理解する</p> <p>第9回 民法2 不法行為など契約外の債権について、債権の一般的な規則について理解する</p> <p>第10回 民法3 物権とは何か、担保とは何かについて理解する</p> <p>第11回 民法4 身分とは何か、相続とは何かについて理解する</p> <p>第12回 刑法1 刑法の基本原則について理解する</p> <p>第13回 刑法2 個々の犯罪、および特別法について理解する</p> <p>第14回 刑法3 構成要件、違法性、責任とは何かについて理解する</p> <p>第15回 まとめ 法学の講義を通して得られた知識を振り返り、以後学習する医療関連法規・その他注目すべき法令の理解につなげる</p>
科目の目的	日本は、法治国家である。法治国家においては、法令が社会の仕組みを規定しており、その実施こそが社会を動かしているという過言ではない。したがって、諸君がこれから社会人として羽ばたいていくということは、いかに細かい法令であろうと「知りませんでした」では済まない世界に飛び込んでいくということでもある。法学を学ぶ意義はここにこそある。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する ・医療と法令の関わりについて理解する
関連科目	関係法規、社会福祉・地域サービス論
成績評価方法・基準	定期試験(70%)、授業内レポート(30%) 提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回講義で扱った内容について目を通しておくこと(30分程度)
教科書・参考書	教科書：特にないが適宜に資料・統計などのプリントを配布する その他、一部法令について事前にプリントして用意すべき場合がある
オフィス・アワー	質問等があれば、講義中あるいは講義後に受け付ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義資料は当日配布するか、前日までにActive Academyにアップする

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
坂本 祐子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは②（小レポート）</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり</p> <p>第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 医療従事者としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>
科目の目的	<p>学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。【関心・意欲】</p>
到達目標	<p>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</p> <p>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</p> <p>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</p>
関連科目	<p>法学（日本国憲法含む） 経済学 社会福祉・地域サービス論 生活文化と医療 地域ボランティア活動論 国際医療協力論</p>
成績評価方法・基準	<p>講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。</p>
教科書・参考書	<p>使用しない</p>
オフィス・アワー	<p>授業の前後（場所：非常勤講師室）</p>
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
鈴木 英恵			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明をします。生活文化を軸に、人びとの病いに対する考えを理解します。</p> <p>第2回 医療民俗学について 民俗学（生活文化）からみた医療の特徴について学びます。</p> <p>第3回 人びとの暮らしと医療民俗学 病いをめぐる生活文化に焦点をあて、各地の医療習俗から人びとの病いの予防と治癒についてみていきます。</p> <p>第4回 民間信仰と石仏 路傍に佇む地藏、道祖神などの石仏は、人びとの信仰対象として造立されました。ここでは道祖神を取り上げ、石仏に込められた人びとの思いと信仰内容をみていきます。あわせて、現代社会に機能する石仏についても考えていきます。</p> <p>第5回 名づけとキラキラネーム 伝承的な名づけと、現代的な名づけといえるキラキラネームの命名方法と特徴を理解します。</p> <p>第6回 いのちと生死の表現 テキストを中心に『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図など、文学作品や絵画に描かれた生死の資料を取り上げてその内容を理解します。</p> <p>第7回 いのち観と人生儀礼 「いのち」とは何かをじっくり考える機会を持ちます。テキストの内容から、人の一生について、年齢を重ねるなかで人生の節目となる各種儀礼を取り上げて考えます。</p> <p>第8回 霊魂が宿るもの 私たちが普段何気なく使う物には、霊魂が宿るといわれています。テキストの内容を中心に、物に宿る霊魂観を理解します。</p> <p>第9回 老いと生きがい 地域社会に伝承する獅子舞の担い手は、主に高齢者の人が活躍しています。獅子舞を軸に、健康維持と生きがいについて考えてみます。</p> <p>第10回 長寿祝いと民俗 テキストに沿って全国各地の長寿祝いの方法と、高齢化社会を象徴する人生儀礼をみていきます。老いと福祉に関することも学びます。</p> <p>第11回 映像鑑賞 盲目の旅芸人瞽女 三味線を持ち、越後や北陸地方の村々をめぐる瞽女さんの生活様式についてみていきましょう。</p> <p>第12回 病いと民俗 病い治癒祈願をめぐる暦と、生活の関係を理解します。</p> <p>第13回 看取りと死 人は最後のときを迎えるにあたり、どのような思いを持つのかを考えてみましょう。家族や知人の臨終に際し、残された人はどのような行動をするのか、テキストを中心にその心情を考えます。</p> <p>第14回 先祖供養と葬送 現代社会の供養は、さまざまな形態と方法がみられます。地域社会に伝承する先祖供養の生活文化について考えます。</p> <p>第15回 まとめ（課題提出の説明） 本授業では「死生観」についてレポートを提出してもらいます。今後、医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは、自らが「死生観」を考え、生を探求することで、どのような最期を迎えたいかを書いてもらいます。「死生観」に対する自分の考えを知ること、患者の気持ちを理解し、その家族の心理・精神的な面を考慮し接することが出来ると考えます。授業のなかでレポート課題の書き方と説明をします。</p>
科目の目的	本授業では、私たちの身近な暮らしから医療にかかわる事柄を取り上げ、ひとつずつ丁寧に紹介していきます。人は病いにかかると現代医療を受ける一方で、健康を願ってまじないや御守り、護符などを心の拠り所としています。普段見過ごしてしまう日常生活に目を向けることで、日々の生活と医療の繋がりを言及します。現代医療の諸問題にも触れ、患者や家族の心理・精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。【関心・意欲】
到達目標	現代社会にみられる伝統的な習俗や儀礼を学ぶなかで、医療と関わりの深い生活文化と教養を身につけます。何気なく見過ごしてしまう日常生活に関心を持つことで、医療従事者としてのいろいろな視点から物事を捉え、豊かなコミュニケーション能力を保持することを目標とします。
関連科目	生命倫理、社会学
成績評価方法・基準	試験（80%）、課題提出（20%） 試験の点数に関わらず、課題提出は必須です。

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	毎日の生活のなかで、医療に関連すること（健康維持と回復、病いの予防と治療など）に興味を持ってください。人は生きている限り、病いと向き合って日々を過ごします。自分が病いにかかったとき、どのような行動をするのかを考えてみましょう。また身近な人たち（父母、祖父母、知人など）はどのように年齢を重ね、人生の節目を迎えたのか関心を寄せましょう。自分の周りを注意深く観察し、その意味を考えることで「何故」という疑問点を発見することが出来ます。授業前に、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。
教科書・参考書	教科書：板橋春夫 2010『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』社会評論社 参考書1：福田アジオ他編 2011『図解案内 日本の民俗』吉川弘文館 参考書2：今村充夫 1983『日本の民間医療』弘文堂
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：経済学

授業コード：4M014

英文科目名称：Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
飯島 正義			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。</p> <p>第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。</p> <p>第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。</p> <p>第5回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。</p> <p>第6回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。</p> <p>第7回 政府の役割 市場の失敗の是正、経済の安定化について説明します。</p> <p>第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作政策、預金準備率操作政策、金融の量的緩和等について説明します。</p> <p>第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。</p> <p>第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。</p> <p>第11回 国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んでいきます。</p> <p>第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。</p> <p>第13回 貿易・国際収支 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。</p> <p>第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。</p> <p>第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。</p>
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。
関連科目	特にありません。
成績評価方法・基準	授業内における小テスト40%（2回、プリント参照可）、定期試験60%で総合的に評価します。なお、小テストのプリントは授業時に回収し、次週返却します。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習すると共に、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではプリント資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。
国家試験出題基準	該当しません。
履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
西菌 大実			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景</p> <p>第2回 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち</p> <p>第3回 生活を支える資源 再生可能資源と再生不能資源</p> <p>第4回 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ</p> <p>第5回 典型七公害 足尾鉍毒、四大公害病</p> <p>第6回 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として</p> <p>第7回 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD</p> <p>第8回 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり</p> <p>第9回 オゾン層破壊 オゾン破壊物質、紫外線</p> <p>第10回 気候変動（Ⅰ） 温室効果ガス、気候変動の状況と見通し</p> <p>第11回 気候変動（Ⅱ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定</p> <p>第12回 エネルギー問題 1次エネルギー、再生可能エネルギー</p> <p>第13回 廃棄物問題 一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物</p> <p>第14回 循環型社会 3R、熱回収</p> <p>第15回 持続可能社会 再生可能資源中心の社会づくり</p>
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自筆ノートの整備、30時間
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）
オフィス・アワー	授業の前後・昼休み、非常勤講師室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質（1） ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質</p> <p>第2回 生命を支える物質（2） 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物（糖質） ・脂質 ・核酸 ・無機質（無機塩類）</p> <p>第2回・3回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>第4回・5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成 ①細胞周期 ②間期（S期、G2期、G1期） ③細胞周期の調節 ④分裂期（M期） ・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配～ ・減数分裂～生殖細胞の形成～と配偶子の形成～</p> <p>第6・7回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成 ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因——遺伝子変異</p>
科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に生物学Aでは生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【知識・理解】
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。
関連科目	化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻） D. サダヴァ他著 ブルー--バックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や基礎生物学分野の研究が医療に生かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学Bを併せて履修することが望ましい。
-------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回・2回 生命活動とエネルギー ①酵素の性質と酵素反応 ②生命活動とエネルギー ・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程について ・人工光合成研究開発の現状と未来計画 ・呼吸：生体のエネルギー産生とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）について ・外呼吸と内呼吸の関係 ・動物と植物のエネルギー連関～光合成と呼吸～</p> <p>第3回・4回 遺伝－ヒトを中心に－その1 ①DNA複製のしくみ ②DNAの変異と修復 ③遺伝情報発現のしくみ ④原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ⑤性染色体の不活性化 ⑥エピジェネティクス</p> <p>第5回・6回 遺伝－ヒトを中心に－その2 ①単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病 ・常染色体性優性遺伝病、・劣性遺伝病と伴性遺伝病 ・保因者、患者の出現頻度－ハーディーワインベルグの法則の有用性－ ②多因子遺伝病 ③染色体異常 ④ミトコンドリア病 ⑤体細胞遺伝病</p> <p>第6回・7回 ヒトの受精と初期発生 ①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成 ②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構 ③胚盤胞の形成と着床 ・始原生殖細胞の形成 ・内細胞塊の分化と胚葉の形成 ⑤胚葉の分化 ⑥前胚子期と胚子期 ⑦発生をつかさどる遺伝子 ⑧先天異常発生の要因</p> <p>第8回 細胞科学の先端研究と医療への応用 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチン－プロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞周期調節のしくみとがん化 ⑤細胞分裂の限界と老化</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況について理解する。【知識・理解】</p>
到達目標	<p>生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。 ②真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。 ③ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。 ④ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。 ⑤細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>
関連科目	生物学A、化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	<p>教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社）</p>

	3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 (羊土社)
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学Aを履修していることが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
井上 浩一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 数と式 多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。</p> <p>第2回 方程式と不等式 1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す</p> <p>第3回 2次関数 関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。</p> <p>第4回 図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。 生活の中でそのセンスを磨くことを考える。</p> <p>第5回 個数の処理 集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。</p> <p>第6回 確率 事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。</p> <p>第7回 論理と命題 命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。</p> <p>第8回 基礎統計学 統計学の基礎的な概念と方法を学ぶ。</p>
科目の目的	<p>・高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と計量、場合の数と確率、基礎統計学について学ぶ。【知識・理解】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関連科目	数学B、化学A・B、物理学A・B、医療統計学、生体計測工学
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>・高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、予習よりも講義内容の復習を期待する。前回の内容が定着したかどうかを確認しておくことが、次の講義の準備学習である。</p> <p>・1コマあたりの学習時間の目安は4時間</p>
教科書・参考書	<p>教科書・参考書：特になし。</p> <p>毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。</p> <p>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</p> <p>配布方法：各自印刷して授業に持参すること</p>
オフィス・アワー	<p>・授業前後の休憩時間</p> <p>・毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。</p> <p>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</p> <p>配布方法：各自印刷して授業に持参すること</p>
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	意欲があれば数学Bも履修することが望ましい。

講義科目名称：数学B

授業コード：4M020

英文科目名称：Mathematics B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
井上 浩一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 三角関数 一般角と弧度法。三角関数の加法定理。三角関数の合成。和と積の変換。</p> <p>第2回 複素数 複素数の導入と計算方法。複素共役。極座標表示と回転。</p> <p>第3回 指数関数と対数関数 指数法則。実数のべき。対数の導入。対数法則。</p> <p>第4回 ベクトルと行列 ベクトルの導入。行列の基本的な性質。</p> <p>第5回 微分の導入 微分の定義。整式の微分。</p> <p>第6回 微分の基本性質 積の微分。合成関数の微分。三角関数の微分。</p> <p>第7回 積分の導入 不定積分。定積分。</p> <p>第8回 積分の応用 部分積分。微分方程式。</p>
科目の目的	<p>医療従事者には、個々の患者の生理的状態や疾病状態、患者集団の動向などを種々のデータによって定量的にとらえ、分析・評価する能力が求められる。また患者への治療・検査刺激の量的な理解と評価も重要である。本科目はそれらのための基礎的数学知識の確認に加えて、発展的な知識を身につけ、専門科目の円滑な理解につなぐことを目指す。具体的には、三角関数、複素数、指数関数、対数関数、ベクトルと行列、微分・積分、微分方程式、部分積分などについて学ぶ。</p> <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<p>1. 医療や科学を学ぶためのやや進んだ数学的な知識と技能を学ぶ。</p> <p>2. 数理現象を理解したり、評価したり、扱ったりする数学的なセンスを養う。</p>
関連科目	数学A、化学A・B、物理学A・B、医療統計学、生体計測工学
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学の教科書の該当する部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、受講生には予習よりも、講義の復習を期待する。前回学んだ内容を理解し復習しておくことが次の講義の準備となる。 ・1コマあたりの学習時間の目安は4時間
教科書・参考書	<p>教科書・参考書：特になし。</p> <p>毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。</p> <p>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</p> <p>配布方法：各自印刷して授業に持参すること</p>
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Aも履修することが望ましい ・毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること

講義科目名称：化学A

授業コード：4M021

英文科目名称：Chemistry A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第8回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p>
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。 [知識・理解]
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特に指定なし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

講義科目名称：化学B

授業コード：4M022

英文科目名称：Chemistry B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。</p> <p>第1回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。</p> <p>第3回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第4回 合成高分子 医療機器には多くの高分子素材が使われている。各種合成高分子の性質と医療機器への応用について解説する。</p> <p>第5回 化学反応の速度 化学反応の速度の測定方法、速度に影響を与える要因について解説する。</p> <p>第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。</p> <p>第7回 化学分析 化学分析の原理を学ぶ。医学で利用されている分析法についても触れる。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。 [知識・理解]
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出题されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

講義科目名称：物理学A

授業コード：4M023

英文科目名称：Physics A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。</p> <p>第2回 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力。</p> <p>第3回 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。</p> <p>第4回 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。</p> <p>第5回 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。</p> <p>第6回 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。</p> <p>第7回 円運動 等速円運動。</p> <p>第8回 バネと単振動 単振動。</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 [知識・理解]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。
関連科目	物理学B
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 ー現代人のための高校理科 (講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み。4号館まで来るならいつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：物理学B

授業コード：4M024

英文科目名称：Physics B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 熱現象 1 熱と温度、比熱</p> <p>第2回 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱</p> <p>第3回 熱現象 3 気体分子運動論</p> <p>第4回 波動 1 回折、屈折、波の式、干渉</p> <p>第5回 波動 2 ドップラー効果</p> <p>第6回 電気の基礎 1 抵抗回路の基礎、電位の概念</p> <p>第7回 電気の基礎 2 キルヒホッフの法則、電力</p> <p>第8回 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 物理学Aに続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。 [知識・理解]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。
関連科目	物理学A
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 一現代人のための高校理科 (講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み。4号館まで来るならいつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	物理Aも履修しておくことを強く勧める。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
高坂 徳子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction、Self Introduction 授業の説明、自己紹介</p> <p>第2回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第3回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips1: 図書館での検索方法</p> <p>第4回 Lesson 2 Diet and Health and Long Lives videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第5回 Lesson 2 Diet and Health and Long Lives topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 2: インターネットによる検索方法</p> <p>第6回 Lesson 3 Self-Driving for the Future videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第7回 Lesson 3 Self-Driving for the Future topicについての英文読解。グループワーク：インタビューする。 Tips 3: インタビューの方法</p> <p>第8回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第9回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species topicについての英文読解。グループワーク：ペアワークを行う。 Tips 4: ペアワークを円滑に進める方法</p> <p>第10回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第11回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts topicについての英文読解。グループワーク：アイデアを出しまとめる。 Tips 5: BrainstormingとKJ法</p> <p>第12回 Lesson 6 IT and Education videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第13回 Lesson 6 IT and Education topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 6: グループワークの際の役割</p> <p>第14回 Lesson 7 Protection from Natural Disasters videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。</p> <p>第15回 Lesson 7 Protection from Natural Disasters topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 7: グループ内の話し合いを活性化化する思考のヒント</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、とくにリーディング力とリスニング力を養成する。英語を学ぶことを通して、将来の医療従事者として、人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、興味・関心を持った事柄に関して調べ、自分の意見を持ち、それらを表現する。【技能・表現】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 ・テキストのトピックについて調べ、自分の意見を持ち、グループ内での討論を通じて、他者の意見も聞き、まとめ、発表することができる。 ・テキストやgraded readerの音声を聴いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。 ・extensive readingの目標は10,000words。口語表現や日常生活での英語表現が理解でき、使うことができる。
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	前期末試験 (50%) グループワーク (30%) extensive reading (10%) web学習 (10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：個人として、次回に学習する範囲の英文や英単語の音声を聴く。読んでわからない単語は、辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。グループワークにおいては、グループでの話し合いに向けての準備をする。</p> <p>復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。Web学習により、単語や文法の定着を図る。</p> <p>予習・復習合わせて約90分。</p> <p>extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。</p>

教科書・参考書	教科書：AFP World Focus—Environment, Health, and Technology—『AFPで見る環境・健康・科学』 宋戸真、Kevin Murphy、高橋真理子（成美堂）2017年。
オフィス・アワー	質問は講義の前後に受け付ける。（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておくこと。 英和辞典を必ず持参すること。電子辞書でも構わない。携帯電話の辞書機能は不可とする。

講義科目名称：医療英語会話

授業コード：4M105 4M106

英文科目名称：Medical English Conversation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
David Andrews			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions</p> <p>第2回 Unit 1: Meeting patients</p> <p>第3回 Quiz (short test) on Unit 1 + Unit 2: Taking a medical history</p> <p>第4回 Quiz (short test) on Unit 2 + Unit 3: Assessing symptoms</p> <p>第5回 Quiz (short test) on Unit 3 + Part I of Unit 4: Taking vital signs + Prepare for Presentations</p> <p>第6回 Presentations + Part II of Unit 4: Taking vital signs Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-4.</p> <p>第7回 Unit 5: Taking a specimen</p> <p>第8回 Quiz (short test) on Unit 5 + Unit 6: Conducting a medical examination</p> <p>第9回 Quiz (short test) on Unit 6 + Unit 7: Assessing pain</p> <p>第10回 Quiz (short test) on Unit 7 + Part I of Unit 8: Advising about medication + Prepare for Presentations</p> <p>第11回 Presentations + Part II of Unit 8: Advising about medication Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 5-8.</p> <p>第12回 Unit 9: Improving Patients' mobility</p> <p>第13回 Quiz (short test) on Unit 9 + Unit 10: Maintaining a good diet</p> <p>第14回 Quiz (short test) on Unit 10 + Unit 11: Caring for inpatients</p> <p>第15回 Unit 12: Coping with emergencies + Prepare for Final Presentation</p>
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course will introduce students to helpful communication strategies and explore communicative skills in English that are of particular relevance to the field of medicine. [技能・表現]
到達目標	Students will be able to: 1) handle a wide variety of medical situations using English, 2) understand and actively use accepted terminology and phraseology to explain and discuss major medical topics, and 3) build a foundation in medical English upon which to further their studies toward becoming professionals in their chosen field of medicine.
関連科目	Related to all English courses
成績評価方法・基準	<p>1. Participation (20%) During each class session, we will discuss issues and questions related to the weekly chapter.</p> <p>2. Mini-presentations (20%) Students will prepare and give presentations in pairs on relevant topics.</p> <p>3. In-class quizzes (40%) These will cover material from the text.</p> <p>4. Final presentation (20%) Students will prepare and give presentations on relevant topics.</p>

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the text. Please read the dialogue, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Each chapter will require about 30 minutes on your own to review and study. In addition, you will need about 5 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書・参考書	Caring For People
オフィス・アワー	During lunch of class day
国家試験出題基準	
履修条件・履修上 の注意	Be prepared to speak in class individually, in pairs, and in small groups. Review the vocabulary and grammar from the text in order to use it in class. This syllabus is subject to change.

講義科目名称：中国語

授業コード：4M030

英文科目名称：Chinese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
深町 悦子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 中国語とは？ 中国語の発音 発音、漢字、声調</p> <p>第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音</p> <p>第3回 子音の発音 子音と声調</p> <p>第4回 発音の復習 音節表の朗読</p> <p>第5回 第1課 今日 は 第2課 お入りください 発音の総復習</p> <p>第6回 第3課 お名前は何ですか 自分の名前を中国語で発音する</p> <p>第7回 第4課 今日は何月何日ですか 第5課 時間 数字、曜日、時間</p> <p>第8回 第6課 これはなんですか 中間レポート提出 本文と練習問題</p> <p>第9回 第7課と第8課 疑問文 本文と練習問題</p> <p>第10回 第9課と第10課 兄弟はいますか 本文と練習問題</p> <p>第11回 第11課と第12課 王先生はどこにいますか 本文と練習問題</p> <p>第12回 第13課と第14課 何人家族ですか 本文と練習問題</p> <p>第13回 第15課と第16課 どこに行きますか 本文と練習問題</p> <p>第14回 第17課 と第18課 中国語は話せますか 本文と練習問題</p> <p>第15回 第1課から第18課までの復習 総合復習</p>
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。[技能・表現]
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、CDを聞きながら発声して覚えるように。
教科書・参考書	教科書：高校中国語（改訂新版）（白帝社） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
青木 順			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。基本母音十個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。</p> <p>第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として伝統料理を紹介する。</p> <p>第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第4回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として伝統茶を紹介する。</p> <p>第5回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら）、合成母音 激音と比較しながら濃音の読み方、合成母音の読み方、それらを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第6回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。</p> <p>第7回 前半のまとめ 後半の文法の学習につながるように、前半に学んだハングルの読み方をまとめ、復習する。</p> <p>第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。</p> <p>第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。</p> <p>第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。</p> <p>第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。</p> <p>第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。</p> <p>第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。</p> <p>第14回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。</p> <p>第15回 まとめ 後半の文法を中心にまとめ、試験問題の説明を行う。</p>
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。（技能・表現）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。
関連科目	特になし。
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40％）・期末テスト（60％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定（コピー）
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30～12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。

履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
高 裕輔			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、ドイツ語のアルファベット、発音の特徴と規則①、表現① ドイツ語の学習のための導入、ドイツ語の発音の特徴、挨拶表現</p> <p>第2回 文法①、表現② 人称代名詞・動詞の現在人称変化と文の作り方（平叙文・疑問文）、自己紹介</p> <p>第3回 文法②、表現②、演習 名詞の性別と人称代名詞</p> <p>第4回 文法③、表現③ 名詞の性別と冠詞、ショッピング</p> <p>第5回 文法④、演習 人称代名詞・疑問代名詞の格変化、演習</p> <p>第6回 文法⑤ 不規則変化動詞</p> <p>第7回 文法⑥、表現④ 命令文、命令とお願い</p> <p>第8回 小テスト 第7回までの内容に関する小テスト</p> <p>第9回 小テスト返却・解説 小テスト解説</p> <p>第10回 文法⑦、表現⑤ 前置詞1、前置詞を使った表現1</p> <p>第11回 文法⑦、表現⑤ 前置詞2、前置詞を使った表現2</p> <p>第12回 文法⑧、演習 zu不定句</p> <p>第13回 文法⑨、演習 冠詞類1</p> <p>第14回 文法⑨、演習 冠詞類2</p> <p>第15回 文法⑩、まとめ 分離動詞、助動詞</p>
科目の目的	ドイツ語の初歩的な文法、基礎的な発音、会話表現の習得を主な目的とします。さらにこれら学習を通じて、これまで学習してきた英語以外に多様な言語があること、そして言語が多様なだけでなくその世界には多様な文化や風習があることを理解することが重要な目的となります。また、本科目は本学ディプロマ・ポリシーにおける「技能・表現」に示された能力向上の一環として行われます。
到達目標	ドイツ語文法の基礎的な知識・短い文の理解・簡単な会話表現の理解・運用。日本語やこれまで学習した英語との違いの認識。
関連科目	「多職種理解と連携」
成績評価方法・基準	期末試験（70%）、小テスト（20%）、宿題（10%）。積極的な参加が好ましいです。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習として、予習にはそれほど時間や労力を割く必要はありません（15分程度）が、復習が極めて重要であるため予習より多くの時間を費やしてください。また1度の復習だけでは記憶に定着しづらいため、数回に分けて行うのが良いでしょう（30分×3程度）。最初の復習はその日のうちに、授業から時間を置かずに行うことが望ましいです。また次の点に注意をしてください。</p> <p>①予習として、知らない文法用語や文法事項等をチェックしておき、授業の際に注意を向けられるようにしてください。</p> <p>②復習として、授業の内容を理解できているか確認し、また何が理解できていないかを把握する必要があります。理解の有無や不明確な部分は演習問題や宿題を通じて確認してください。また授業で使用した語や文あるいは表現は、できるだけ次の授業までに覚えるようにしてください。</p>
教科書・参考書	ドイツ語一步一步 (Deutsch lernen -Einen Schritt weiter-) ISBN: 9784261012583
オフィス・アワー	主に授業の前夜
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	学習のため小さいものでよいので独和辞典を用意してください。授業中には辞書は使用しません。授業へは積極的な参加が好ましいです。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
宮入 亮			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ポルトガル語について ポルトガル語の読み方</p> <p>第2回 自己紹介ができる 自己紹介の表現 国籍の表現 動詞ser (be動詞) 疑問文と否定文</p> <p>第3回 好きなものを伝えることができる 趣味の表現 色の表現 動詞gostar</p> <p>第4回 家族を紹介することができる 家族の表現 動詞の現在形(規則・不規則)</p> <p>第5回 予定の表現や約束の表現ができる 誘いかけの表現 曜日の表現 動詞ir</p> <p>第6回 今おこなっていることの表現、天気の表現ができる 進行の表現 天候の表現 動詞estar</p> <p>第7回 週末にしたことを表現できる 過去の表現 動詞の完了過去形(規則・不規則)</p> <p>第8回 過去の習慣の表現ができる 子どもの頃の習慣の表現 動詞の未完了過去形</p> <p>第9回 「もし～だったら」と誘う表現ができる 「もし～だったら」、「～する時は」の表現 誘う表現 動詞の接続法未来形</p> <p>第10回 指示や命令の表現ができる 道案内の表現 指示やお願いの表現 動詞の命令法</p> <p>第11回 願望や要求の表現ができる したいことを伝える表現 してほしいことを伝える表現 動詞querer 目的語の代名詞</p> <p>第12回 許可の表現、お願いの表現、時刻の表現ができる 許可の表現 動詞poder 時刻の表現・時点の表現</p> <p>第13回 丁寧なお願いや許可の表現 丁寧の表現 動詞の過去未来形</p> <p>第14回 比較の表現ができる 比較の表現</p> <p>第15回 別れや感謝の表現ができる 別れや感謝の表現</p>
科目の目的	<p>【技能・表現】 ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお勧めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることが出来ます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英</p>

	<p>語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。</p>
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	<p>期末試験(70%)、授業5回毎に行う小テスト(3回実施で各10%、計30%) 小テストは第5回、第9回、第13回の授業内で実施します。各小テストは、翌週に返却し解説します。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回先入観なく新しい内容を学習していただきたいため、予習は不要とします。 ただし、復習は授業直後と授業直前に必ず毎回30分ほど行ってください。</p>
教科書・参考書	<p>(教科書) 市之瀬敦他、『Boa Sorte!-会話で学ぶポルトガル語-』。朝日出版社。</p> <p>(参考書) 黒澤直俊他(編)、『デイリー日葡英・葡日英辞典』。三省堂。 市之瀬敦他(編)、『プログレッシブポルトガル語辞典』。小学館。</p> <p>その他、資料配布や、自習用アプリの紹介などいたします。</p>
オフィス・アワー	<p>授業前、授業後の時間 (火曜日1限は授業前後、火曜日4限は授業前、水曜日2限は授業前後)</p>
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 情報と検索の活用 情報の意義と情報収集の方法、具体的な活用について学ぶ テキスト：(A:第1章)情報と検索の活用 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第2回 インターネットの仕組み インターネットの仕組みと情報活用について学ぶ テキスト：(A:第13章)インターネットの仕組み、 参考(B:第3章)インターネットの技術 課題等は返却はしない</p> <p>第3回 情報セキュリティ 情報セキュリティの基本的な考え方を学ぶ テキスト (A:第12章)情報セキュリティ 参考(B:第5章)情報セキュリティ 課題等は返却はしない</p> <p>第4回 情報発信の方法とモラル 情報発信、ICTコミュニケーションの特徴と情報モラルについて学ぶ テキスト (A:第14章)情報発信の方法とモラル 参考(B:第6章)情報倫理 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第5回 文書作成の基本 文書作成の基本、文章作成の基本事項を学ぶ テキスト (A:第2章)文書作成の基本 課題等は返却はしない</p> <p>第6回 レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ レポートの作成について MS-Wordを用いて、基本形式を学ぶ テキスト(A:第3章)レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ 課題等は返却はしない</p> <p>第7回 レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ レポート作成における表作成、データ管理について基本事項を学ぶ テキスト (A:第4章)レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第8回 レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ レポート作成における画像挿入、文章校正について基本事項を学ぶ テキスト (A:第5章)レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第9回 プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ プレゼンテーションの基本的な概念と具体的方法を学ぶ テキスト (A:第10章)プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第10回 プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 効果的なプレゼンテーションを行うための基本事項について学ぶ テキスト (A:11章)プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第11回 表計算 (1) ～表計算の基本～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第6章)表計算 (1) ～表計算の基本～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第12回 表計算 (2) ～絶対参照とIF～ スプレッドシートによるセル参照の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第7章)表計算 (2) ～絶対参照とIF～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第13回 表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ スプレッドシートによるグラフ作成の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第8章)表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ 課題等は返却はしない</p> <p>第14回 表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第9章)表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第15回 情報を集め、まとめる 情報収集と情報発信、情報をまとめることの意義について学ぶ テキスト (A:第15章)情報を集め、まとめる 参照 課題等は返却はしない</p>

科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちはそのかなりの量を情報通信機器を使って得る。大学での学習も情報通信機器を扱うスキルによって影響を受けることは確実である。本科目では大学での学びを充実させるために、情報通信機器の基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。[技能・表現]
到達目標	パーソナルコンピュータや、インターネットを通して情報を活用する能力を身につける。また、情報の意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の概念について説明できる。 2. パーソナル・コンピュータのの基本操作が行える。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。
関連科目	情報リテラシー
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A) 基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B) 最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます）
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 OSとアプリケーションソフト ハードウェアとソフトウェア パソコンEdu. (B) 第1章 OSとアプリケーションソフト 1. OSとは何か 2. アプリケーションソフト 課題等は返却はしない</p> <p>第2回 コンピュータの仕組み (1) コンピュータシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピュータの仕組み 1. コンピュータの歴史 2. コンピュータの処理の基本 3. 文字コードとフォント 課題等は返却はしない</p> <p>第3回 コンピュータの仕組み (2) コンピュータシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピュータの仕組み 4. パソコンの仕組み 5. タブレットとスマートフォン 6. 周辺機器と光ディスク 課題等は返却はしない</p> <p>第4回 インターネットの技術 (1) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 1. LAN/無線LAN2. インターネットの仕組み 3. Webページとブラウザ 課題等は返却はしない</p> <p>第5回 インターネットの技術 (2) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 4. 電子メールの仕組み 5. ネットサービスとは何か 課題等は返却はしない</p> <p>第6回 マルチメディア 様々なマルチメディアについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第4章 マルチメディア 1. マルチメディアと音声データ 2. 画像データと動画データ 3. ファイル圧縮 課題等は返却はしない</p> <p>第7回 情報セキュリティ (1) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 1. コンピュータウイルスの正体 2. ネット詐欺から身を守る法 課題等は返却はしない</p> <p>第8回 情報セキュリティ (2) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 3. 情報漏洩と暗号化 4. パスワードの正しい管理法 パソコンEdu. ネットの脅威と対策 強いパスワードの現実解 課題等は返却はしない</p> <p>第9回 情報倫理 情報を扱う上で重要な情報倫理についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 1. 情報社会の権利と法律 課題等は返却はしない</p> <p>第10回 著作権と個人情報保護 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 2. 著作権の基礎と著作物の活用 パソコンEdu. 著作権の基礎と著作物の活用 参考 課題等は返却はしない</p> <p>第11回 ネットコミュニケーション インターネットに代表されるネットワークコミュニケーションについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 3. ネットコミュニケーションの作法 パソコンEdu. パソコン法律相談所、メールの作法 参考 課題等は返却はしない</p> <p>第12回 情報と社会 身の回りのコンピュータシステムを通して情報と社会について学ぶ パソコンEdu. (B) 第7章 情報と社会 1. 身の回りのコンピュータシステム 2. 電子マネー 3. 情報デザインの作法 参考 課題等は返却はしない</p>

	<p>第13回 SNSによる情報収集と情報発信 ソーシャルネットワーキングサービスについて情報収集と発信について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) 課題等は返却はしない</p> <p>第14回 情報収集と保管・管理 クラウドサービスによる情報保管と管理について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 Web/クラウドサービス 参考 課題等は返却はしない</p> <p>第15回 情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。 課題等は返却はしない</p>
科目の目的	<p>情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。[知識・技能]</p>
到達目標	<p>情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを实践できる。</p>
関連科目	情報処理
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A) 基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B) 最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます） * 前期「情報処理」で使用した教科書ですので、再度購入する必要はありません。</p>
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
土屋 仁			
青木喜久代			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（自己紹介）（土屋） 授業進行の説明</p> <p>第2回 ルール解説（6路盤）（青木） 基本を理解する。：囲碁の5つのルールに関する説明、石を取る練習</p> <p>第3回 ルールの復習、終局の説明（6路盤）（青木） 工夫をする重要性を学ぶ。：6路盤を用いて実践対局、囲碁の終局の解説</p> <p>第4回 9路対局と終局の理解（9路盤）（青木） 状況判断ができる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第5回 9路対局と石を取るための初歩的技術（青木） 自分で決断できる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第6回 問題演習①（19路盤）（青木） 布石の考え方を身に着ける。：ルールの理解と確認</p> <p>第7回 模範碁の解説と対局①（19路盤）（青木） 実行した結果に責任を持つ。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第8回 模範碁の解説と対局②（19路盤）（青木） 見えていることが見えていないことを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第9回 模範碁の解説と対局③（19路盤）（青木） 欲張ると破たんすることを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第10回 模範碁の解説と対局④（19路盤）（青木） 正しい大局観を持てるようになる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第11回 9子局の解説、連碁対局（19路盤）（青木） 局所的判断と大局観が両立できる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第12回 模範碁の解説と対局⑤ ペア碁対局（19路盤）（青木） 先を読み力できる。：19路盤模範囲碁の解説とペア碁の実践対局</p> <p>第13回 模範碁の解説と対局⑥（19路盤）（青木） 考える習慣がつく。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第14回 問題演習① 解説、囲碁の世界（青木） 頑張ってもできない経験ができる。：石の取り方、二眼生きの解説</p> <p>第15回 代表者対局（まとめ）（19路盤）（土屋） すぐすべきこと、後でも可能なことの判断力を磨く。：19路盤で学生代表ペア2組、と9子局での対局</p>
科目の目的	<p>囲碁のルールを習得し、19路盤で対局ができるようになること。囲碁は日本の伝統文化だけではなく、国際的にも広く普及し親しまれているゲームである。このゲームに勝つには大局観が必要であり、この大局観を実践を通じて判断力、分析力、集中力を養うことができる。この大局観は、医療現場において、必要欠くべからざるものである。特に当直や、日直等、放射線業務を一人でこなす場合には、自己判断でトリアージ（検査における優先順位）を付け、業務を行わなければならない。このトリアージを実践に置き換えて学ぶことができる。このことは、多様な情報を適切に分析し、問題を解決する方法を身に着けることができる。</p>
到達目標	「考える力」、「判断力」を磨き、先を読む力を習得する。
関連科目	臨床心理学
成績評価方法・基準	レポート（60%）、実技評価（40%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業内容について復習を行い理解しておくこと。 ・準備学習時間の目安は20分。
教科書・参考書	<p>教科書：光文社新書「東大教養囲碁講座」</p> <p>参考書：日本棋院「実践囲碁総合演習」</p>
オフィス・アワー	随時（昼休みが良い）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			
星野 修平	榎本 光邦		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは (杉田)</p> <p>第2回 調べる 情報を探す (杉田)</p> <p>第3回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー1 (星野)</p> <p>第4回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー2 (星野)</p> <p>第5回 聞く・読む・考える 授業の受け方、本や資料の読み方、考える力をつけるには (杉田)</p> <p>第6回 書く：レポートの書き方1 レポートとは何か レポート作成の手順 (杉田)</p> <p>第7回 書く：レポートの書き方2 論文作法 (杉田)</p> <p>第8回 書く：レポートの書き方3 レポートの形式 (杉田)</p> <p>第9回 相手の話を聴く ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。 (榎本)</p> <p>第10回 自分の気持ちや考えを伝える グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。 (榎本)</p> <p>第11回 協力して作業する これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する (榎本)</p> <p>第12回 自分自身の課題を見つける 入学以来の自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す (杉田)</p> <p>第13回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第14回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第15回 書く：レポートを書く レポート作成の実践、提出 (杉田) レポートは後期開始後評価と共に返却する。</p>
科目の目的	<p>大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。【知識・理解】</p> <p>1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解</p> <p>2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解。</p>
到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー)を理解し、授業やレポートで実践できる。</p> <p>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。(スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル)</p>
関連科目	全科目
成績評価方法・基準	杉田担当課題(50%)、星野担当課題(20%、課題に対するフィードバックはAAにて掲示を行う)、榎本担当意見文・感想文(30%、意見文・感想文の内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。
教科書・参考書	なし。プリントを使用。
オフィス・アワー	杉田：授業の前後、昼休み、4号館8階26研究室 星野：授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 榎本：月、水、木、金の昼休み、1号館3階305、1号館学生相談室、4号館学生相談室
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	プリントはActive Academy上で配布するので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
藤田 清貴			
木村 朗			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン、教養ゼミナールの進め方、グループ分け、グループ討論 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第2回 グループ学習-1 (課題テーマの選定、役割分担) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第3回 グループ学習-2 (分担内容の調査結果について報告・討論) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第4回 グループ学習-3 (追加・確認内容について報告・討論) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第5回 グループ学習-4 (調査・研究結果まとめ) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第6回 グループ学習-5 発表スライド作成準備 (PowerPointの使い方) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第7回 グループ学習-6 発表スライド作成および発表練習 (1) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第8回 グループ学習-7 発表スライド作成および発表練習 (2) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第9回 発表と討論 (1) 前半グループによる発表・討論 (発表10分, 討論3分) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第10回 発表と討論 (2) 後半グループによる発表・討論 (発表10分, 討論3分) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野</p> <p>第11回 医療機関に勤務する外部講師による講演 (1) (2) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野. 講演終了後レポート提出, 各教員のチェック後, 成績を評価する.</p> <p>第12回 医療機関に勤務する外部講師による講演 (3) (4) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野. 講演終了後レポート提出, 各教員のチェック後, 成績を評価する.</p> <p>第13回 医療機関に勤務する外部講師による講演 (5) (6) 担当：藤田、亀子、小河原、荒木、木村(博)、古田島、長田、高橋、白土、木村(鮎)、石垣、岡山、唐木、川田、宮野. 講演終了後レポート提出, 各教員のチェック後, 成績を評価する.</p> <p>第14回 他職種による講演－専門への誘い (1) (木村 朗) 保健科学の概要と成り立ちを学ぶ 1. 病と人間 2. 保健科学の基礎としてのヘルスリテラシーのあらし</p> <p>第15回 他職種による講演－専門への誘い (2) (木村 朗) 保健科学を具其他的な事例に即して理解する 1. ヘルスリテラシーの活用 2. 文化とヘルスリテラシー</p>
科目の目的	少人数のグループに分かれグループ学習を行う。担当教員を含めたグループ内討論により課題テーマを設定し、調査・研究、討論を行い資料作成などに取り組む。グループ学習の結果については発表会を行い、学習能力を高める。さらに、講義では医療・科学分野などで活躍する外部講師を招き、各領域の仕事内容や医療人としての心構えを学ぶ。【関心・意欲】
到達目標	1. 課題テーマの選択から発表までの一連のプレゼンテーションの仕方を理解できる。 2. グループ討論に積極的に参加し相手の意見を理解しながら自分の考えを述べるができる。 3. 各職種の仕事内容を理解できる。
関連科目	生命倫理、大学の学び入門、チーム医療論、生殖医療技術学
成績評価方法・基準	演習への取り組み50%、発表内容20%、レポート30%により成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。また、授業回数の3分の1以上の欠席がある場合には試験成績は無効とみなす。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	グループ学習においては課題テーマの情報収集を積極的に行いその内容を理解しておくこと。準備学習に必要な学習時間の目安は1～2時間である。
教科書・参考書	身体活動学入門 (三共出版) 木村朗担当部分で使用、ほか必要に応じて資料を配布する。

オフィス・アワー	演習終了後に各グループの担当教員が質問を受け付ける。
国家試験出題基準	臨床検査総論 3検査部門の組織と業務 A検査体制, B検査部門の組織と業務, C検査部門の業務
履修条件・履修上の注意	授業中は携帯電話の電源を切ること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 序論1 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織</p> <p>第2回 序論2 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語</p> <p>第3回 骨格系1 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節</p> <p>第4回 骨格系2 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔</p> <p>第5回 骨格系3 脊柱 胸郭 上肢帯の骨 上腕の骨</p> <p>第6回 骨格系4 前腕の骨 手の骨 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨</p> <p>第7回 筋系1 筋の構造と機能 頭頸部の筋</p> <p>第8回 筋系2 胸腹部の筋 上肢帯の筋 上腕の筋 前腕の筋 手の筋</p> <p>第9回 筋系3 下支帯の筋 大腿の筋 下腿の筋 足の筋</p> <p>第10回 神経系1 神経系の構成 中枢神経系（脊髄 延髄 橋 中脳 小脳）</p> <p>第11回 神経系2 中枢神経系（間脳 大脳）</p> <p>第12回 神経系3 脳室 脳脊髄膜 脳脊髄液 末梢神経（脳神経）</p> <p>第13回 神経系4 末梢神経（脳神経 脊髄神経）</p> <p>第14回 神経系5 末梢神経（脊髄神経） 自律神経（交感神経 副交感神経）</p> <p>第15回 神経系6 伝導路（反射路 求心性伝導路 遠心性伝導路）</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる人体の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	人体の基本的な器官系の位置、構造を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特に無し
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【臨床検査技師】 V-1-B-a, b, c, d, e C D E F G 3-H-a, b, c, d, e, f, g
履修条件・履修上の注意	ActiveAcademyによるレジュメの配付期間：授業の1週間前から1週間後まで。 各自印刷して持参するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。 ・健康食品管理士受験資格取得のための要件科目 ・遺伝子分析科学認定士（初級）受験資格取得のための要件科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 脈管系1 血管系総論 心臓 刺激伝導系 心臓の血管(冠状動脈) 肺循環と体循環</p> <p>第2回 脈管系2 動脈系 静脈系</p> <p>第3回 脈管系3 胎生時の循環系 リンパ系(リンパ節 リンパ本幹) 脾臓 胸腺</p> <p>第4回 脈管系4 消化器系1 血液 血球 造血組織 内臓学総論(粘膜 腺) 口腔(歯)</p> <p>第5回 消化器系2 口腔(口蓋 舌 唾液腺) 咽頭 食道 胃</p> <p>第6回 消化器系3 小腸(十二指腸 空腸 回腸) 大腸(盲腸 結腸 直腸) 肝臓</p> <p>第7回 消化器系4 呼吸器系1 胆嚢 膵臓 鼻腔 副鼻腔</p> <p>第8回 呼吸器系2 喉頭 気管 気管支 肺</p> <p>第9回 泌尿器系 生殖器系1 腎臓 尿管 膀胱 尿道 男性生殖器(精巣 精巣上体)</p> <p>第10回 生殖器系2 男性生殖器(精管 精嚢 前立腺 陰茎 精液 精子) 女性生殖器(卵巣 卵管 子宮 膣 外陰部 胎盤)</p> <p>第11回 腹膜 内分泌系 腹膜 内分泌系(下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島)</p> <p>第12回 感覚器系1 視覚器(眼球 眼球の付属器) 平行聴覚器(外耳 中耳 内耳)</p> <p>第13回 感覚器系2 皮膚(表皮 真皮 皮下組織 角質器 皮膚の腺)</p> <p>第14回 発生学1 受精から着床 発生の第2週・第3週</p> <p>第15回 発生学2 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる脈管・内臓・発生の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	脈管・内臓の基本的な構造と発生学について説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特に無し
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【臨床検査技師】 V-1-A-a, b, c, d 3-A-a, b, c, d, e, f, g, h B-a, b, c, d, e C-b, c, d, e, f, g, h, i D-a, b, c, d E-a, b, c, d, e, f, g F-a, b, c G-a, b, c I-a, b, c J-a, b K-a, b
履修条件・履修上の注意	ActiveAcademyによるレジュメの配付期間：授業の1週間前から1週間後まで。 各自印刷して持参するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。 ・健康食品管理士受験資格取得のための要件科目 ・遺伝子分析科学認定士(初級)受験資格取得のための要件科目

講義科目名称：生理学 I

授業コード：4M043

英文科目名称：Physiology I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官</p> <p>第2・3回 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達</p> <p>第4・5回 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮</p> <p>第6-8回 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節</p> <p>第9-12回 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム</p> <p>第13-15回 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴呂富久子、根本英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00
国家試験出題基準	<p>III-8-A-a III-8-A-b III-8-A-c III-8-A-d III-8-B-a III-8-B-b III-8-B-c III-8-C-a III-8-C-b III-8-C-c III-8-C-d III-8-C-e III-8-C-f III-8-C-g III-8-C-h III-10-A-b IV-1-A-a IV-1-A-b IV-1-A-c IV-1-A-d IV-1-A-e IV-1-B-a IV-1-B-b IV-1-C-a IV-1-C-b V-3-I-a V-3-I-b V-3-I-c X-1-B-d</p>
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1・2回 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能</p> <p>第3-5回 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節</p> <p>第6・7回 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節</p> <p>第8・9回 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み</p> <p>第10・11回 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節</p> <p>第12・13回 血液の生理学 血液の組成とその機能</p> <p>第14・15回 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00
国家試験出題基準	<p>III-2-A-a III-2-A-b III-2-A-d III-2-A-e III-2-B-a III-2-B-b III-2-B-c III-6-A-a III-6-A-b III-6-A-c III-6-A-d III-6-A-e IV-12-A IV-12-B-a IV-12-B-b V-3-C-a V-3-C-b V-3-C-c V-3-C-d V-3-C-e V-3-C-f V-3-C-g V-3-C-h V-3-F-a V-3-F-b V-3-F-c VI-1-A-a VI-1-A-b VI-1-B-a VI-1-B-b VI-1-C-a</p>

	VI-1-C-c VI-1-D-b VI-1-D-c VI-1-D-d
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
木村 鮎子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 生化学を学ぶための基礎 生化学で基礎となる生体構成成分，単位，臨床化学への応用</p> <p>第2回 糖質 糖質の基礎（構造，異性体），糖質の分類（二糖類，多糖類，複合糖質）</p> <p>第3回 脂質 脂質の基礎，脂質の分類（単純脂質，複合脂質，誘導脂質，その他の脂質）</p> <p>第4回 タンパク質とアミノ酸 アミノ酸（構造と種類，特徴），ペプチド結合，タンパク質（分類，構造，性状）</p> <p>第5回 酵素 酵素の分類と性質，酵素反応速度論，酵素活性の調節</p> <p>第6回 核酸 核酸の基礎（構造等），核酸の種類，遺伝子</p> <p>第7回 ビタミン ビタミンの分類（脂溶性ビタミン，水溶性ビタミン），ビタミン欠乏症</p> <p>第8回 ホルモン ホルモンの分類とその機能，各種ホルモンによる生体調節，ホルモンと疾患との関係</p> <p>第9回 ミネラル ミネラルの生理的意義，多量ミネラル（Na, K, Cl等），微量ミネラル（Fe, Zn等）</p> <p>第10回 糖質代謝 糖代謝の概要，糖の消化と吸収，糖代謝の概要（クエン酸回路等），解糖系と糖新生，糖代謝異常と疾患</p> <p>第11回 脂質代謝 脂肪酸の生合成と酸化，ケトン体，各脂肪酸の代謝，コレステロールの合成・輸送・蓄積，代謝異常</p> <p>第12回 タンパク質の分解とアミノ酸代謝 タンパク質の分解とアミノ酸プール，アミノ酸代謝（エネルギー源，尿素生成），代謝異常</p> <p>第13回 核酸代謝 核酸の生合成と分解</p> <p>第14回 生体エネルギー 高エネルギーリン酸化合物，呼吸鎖と酸化的リン酸化</p> <p>第15回 中間代謝の概要（まとめ） 糖質代謝と脂質代謝の相互関係，糖質代謝とアミノ酸代謝</p>
科目の目的	臨床検査で必要となる生体物質の構造，機能とその代謝を学び，病態に対する生化学の基礎知識を習得する。また，酵素の特性，酵素反応速度論についても学ぶ。（知識・理解）
到達目標	<p>1. 糖質とその代謝，脂質とその代謝，タンパク質とその分解，アミノ酸代謝，核酸とその代謝，生体エネルギーについて，生合成や代謝の過程が理解できること。</p> <p>2. 酵素反応速度論においては，K_m値，V_{max}が計算で求められるようになること。</p>
関連科目	化学基礎，生物学基礎，生理学，薬理学
成績評価方法・基準	筆記試験（70%），ミニテスト（30%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容が理解できるよう，事前に教科書を30分程読んでおく。
教科書・参考書	教科書：藪田 勝 編；栄養科学イラストレイテッド生化学 改定第2版（羊土社） 参考書：中元 伊知郎 著；生化学ワークノート（MCメディカ出版） 藪田 勝 編；栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート 改定第2版（羊土社）
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受ける。個別の相談は，事前連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	1:IV-1-A 2:IV-4-A 3:IV-5-A 4:IV-6-A 5:IV-2-I, 9-A, B

	6: I-1-A-a 7: IV-13-A, B, C 8: IV-12-A, B 9: IV-3-A 10: IV-4-B 11: IV-5-B 12: IV-6-B 13: IV-1-A-b 14: IV-1-C 15: IV-4-B, 5-B, 6-B
履修条件・履修上の注意	付加資格「健康食品管理士」及び「遺伝子分析科学認定士（初級）」の受験資格基準カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
長田 誠			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 医学概説（1） 基礎医学，社会医学，臨床医学</p> <p>第2回 医学概説（2） 健康と病気，医学と医療</p> <p>第3回 医学の歴史（1） 医学の起源，原始医術，古代の医学</p> <p>第4回 医学の歴史（2） 中世の医学，近世の医学，日本の医学</p> <p>第5回 病院の部門別役割 病院における各部門の役割</p> <p>第6回 わが国の医療制度 医療体系，老人の医療と福祉</p> <p>第7回 医療提供体制 医療施設の種類の種類，医療従事者の身分</p> <p>第8回 医療法 医療法の改正，我が国の医療制度の特徴</p> <p>第9回 医療保険制度 医療保険の種類，診療報酬支払制度</p> <p>第10回 社会保障費と医療財政 国民医療費と医療費の現状と問題</p> <p>第11回 病院医療の質 医療の質の維持と向上，安全な医療</p> <p>第12回 患者心理 患者の心理的特徴，病気の経過による心理状態</p> <p>第13回 医の倫理，医療従事者の倫理，医療事故をめぐる諸問題 患者の権利の尊重，死をめぐる諸問題，医療従事者の倫理，医療過誤，医療事故をめぐる諸問題</p> <p>第14回 臨床検査技師の業務と役割1 病院における臨床検査技師の業務と役割</p> <p>第15回 臨床検査技師の業務と役割2 病院以外における臨床検査技師の業務と役割</p>
科目の目的	医療人として幅広い知識と教養をもって医療に貢献できるように，医学の概要および歴史を知り，わが国の保健・医療・福祉に関する制度をよく理解する。さらに，病気による患者の心理的特徴や医の倫理，医療従事者の倫理について考え，医療従事者の心構えを学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康と病気について説明できる。 医学の歴史について説明できる。 病院の役割と我が国の医療制度について説明できる。 医療施設についてその種類と違いを説明できる。 医療法の特徴について説明できる。 医の倫理および医療従事者の倫理について説明できる。
関連科目	生命倫理，公衆衛生学，社会福祉・地域サービス論，関係法規
成績評価方法・基準	定期試験70%，小テスト30%により成績を評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・各回の授業内容について予習・復習を約1時間程度行い、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：星 和夫：臨床検査学講座 「保健医療福祉概論」（医歯薬出版） 参考書：なし ・必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	講義終了後，個別相談は随時対応する。
国家試験出題基準	IX - 1 - A, B, C, D, E IX - 3 - A, B IX - 5 - C IX - 6 - C, E, F, G

	IX - 7 - A, B, C, D IX - 8 - B IX - 9 - A, B, C, D
履修条件・履修上の注意	・状況に応じて内容が変更される場合があります。

講義科目名称：病理学

授業コード：4M048

英文科目名称：General Pathology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
岡山 香里			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病理学序論・組織細胞障害と修復機構1 病理学とは、変性</p> <p>第2回 組織細胞障害と修復機構2 アポトーシス、壊死</p> <p>第3回 組織細胞障害と修復機構3 再生、化生、瘢痕治癒</p> <p>第4回 物質代謝異常1 糖質代謝異常</p> <p>第5回 物質代謝異常2 脂質代謝異常</p> <p>第6回 物質代謝異常3 核酸代謝異常、生体内色素代謝異常、無機物代謝異常</p> <p>第7回 循環障害1 循環血液量の異常</p> <p>第8回 循環障害2 閉塞性の循環障害</p> <p>第9回 循環障害3 傍側循環、全身性の循環障害</p> <p>第10回 炎症1 炎症とは、炎症の分類、炎症の経過</p> <p>第11回 炎症2 炎症の各型、自己免疫性疾患</p> <p>第12回 先天異常 遺伝子・染色体異常と発生発達異常</p> <p>第13回 腫瘍1 定義、分類、良性腫瘍と悪性腫瘍</p> <p>第14回 腫瘍2 腫瘍の発生、発育、分化度</p> <p>第15回 腫瘍3 腫瘍の発生要因、腫瘍の種類</p>
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、先天異常、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。 2. 疾病の検査事項を説明できる。 3. 疾病の病理所見を説明できる。
関連科目	解剖学
成績評価方法・基準	定期試験80%、小テスト20%により成績を評価する。試験形態は筆記試験とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習、復習を行うこと。準備学習時間に必要な時間は1時間程度とする。
教科書・参考書	教科書：臨床検査講座 病理学/病理検査学 医歯薬出版、講師が配布する資料（授業ごとに配布する） 参考書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 小林正伸著 南山堂
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	V-2-A-a V-2-A-b V-2-B-a V-2-B-b V-2-B-c V-2-C-a V-2-C-b V-2-C-c

	V-2-C-d V-2-C-e V-2-C-f V-2-C-g V-2-C-h V-2-D-a V-2-D-b V-2-D-c V-2-D-d V-2-D-e V-2-D-f V-2-E-a V-2-E-b V-2-E-c V-2-E-d V-2-E-e V-2-E-f V-2-E-g V-2-E-h V-2-E-i V-2-E-j V-2-F-a V-2-F-b V-2-F-c V-2-F-d V-2-F-e V-2-F-f V-2-H-a V-2-H-b V-2-H-c V-2-H-d V-2-H-e V-2-H-f
履修条件・履修上の注意	臨床検査技師国家試験受験資格取得のための要件科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
石館 敬三			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 公衆衛生の理解 公衆衛生学の特徴 健康の概念の変遷、予防の概念</p> <p>第2回 人口と公衆衛生 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行</p> <p>第3回 健康指標と保健統計 人口静態・人口動態、年齢調整死亡率、20世紀100年の観察</p> <p>第4回 疫学1 疫学概念、疫学3要因と2要因、記述疫学、分析疫学、後ろ向き研究と前向き研究</p> <p>第5回 疫学2 系統誤差、バイアスとその除去、相対危険度、寄与危険度、因果関係論、スクリーニングの意義と計算</p> <p>第6回 感染症総論 感染症発生の3要因と予防の原則、新興・再興感染症、1類感染症、予防接種</p> <p>第7回 感染症各論 結核、エイズ</p> <p>第8回 母子保健 成人保健 乳児死亡率・妊産婦死亡率 がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病等生活習慣病</p> <p>第9回 老人保健福祉 学校保健 老人保健法、介護保険法、医療介護総合確保推進法</p> <p>第10回 精神保健 精神保健のあゆみ、精神障害の種類、入院治療の形式、精神保健福祉対策、アルコール・薬物依存、自殺予防</p> <p>第11回 生活環境、環境と健康、環境基準、地球環境問題 公害と防止対策、公害健康被害補償の原則</p> <p>第12回 栄養と食品衛生 食中毒発生状況の変遷、食中毒の種類と予防法</p> <p>第13回 産業保健 労働環境、職業病の種類と予防法</p> <p>第14回 衛生行政と社会保障 保健所と区市町村保健センター、社会保障概要</p> <p>第15回 医療行政概要 医療法改正の動向、医療計画、地域医療連携の推進、救急医療体制の整備、医療人材・医療資源の国際比較</p>
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理、環境学、社会学、情報処理、感染と免疫、微生物検査学
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な学習時間の目安 1コマあたり4時間
教科書・参考書	<p>【教科書】 「最新臨床検査学講座 公衆衛生学」照屋浩司他著（医歯薬出版） 「国民衛生の動向 2017/2018版」（一般財団法人 厚生労働統計協会）</p> <p>【参考書】 特になし</p>
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	IX-2-A-abcde IX-3-A-ab, B-abcd, C-ab IX-4-A-abcde, B-abcdef

	IX-5-A-abcd, B-abcdefg, C-abcdefg, D-abcdef, E-abcdefghi jk, F-abcde, G-a IX-6-A-ab, B-abcd, C-abcde, D-abcde, E-ab, F-ab, G-abc, H-abcdef IX-7-A-abc, B-abcde, C-abcde, D-abc
履修条件・履修上の注意	保健統計の簡単な計算（例、罹患率、年齢調整死亡率）に習熟するために電算機を持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
長田 誠			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 生物学の基礎① 生物とは、細胞とは、タンパク質、糖質、脂質、核酸</p> <p>第2回 生物学の基礎② 恒常性</p> <p>第3回 ヒトゲノムと遺伝における染色体① 遺伝、遺伝子、染色体、ゲノム</p> <p>第4回 ヒトゲノムと遺伝における染色体② 細胞周期、細胞分裂（体細胞分裂、減数分裂）</p> <p>第5回 遺伝子の構造と機能 遺伝子の構造と転写、翻訳</p> <p>第6回 分子遺伝学の研究ツール① DNA複製、制限酵素、遺伝子クローニング</p> <p>第7回 分子遺伝学の研究ツール② PCR、シーケンス、cDNA</p> <p>第8回 臨床細胞遺伝学の基礎① 染色体分析、Gバンド、FISH、マイクロアレイ</p> <p>第9回 臨床細胞遺伝学の基礎② 染色体異常</p> <p>第10回 臨床細胞遺伝学：常染色体と性染色体の疾患 常染色体異常（数的異常、構造異常）性染色体異常</p> <p>第11回 遺伝と遺伝病①、単一遺伝子疾患 メンデル遺伝、常染色体優性遺伝形式、常染色体劣性遺伝形式、X連鎖遺伝形式</p> <p>第12回 遺伝と遺伝病②、多因子遺伝性疾患、集団の遺伝学 多因子遺伝性疾患、個人の遺伝的多様性（変異と多型）、集団遺伝学</p> <p>第13回 癌の遺伝学の基礎 染色体転座、がん抑制遺伝子、多段階過程</p> <p>第14回 個別化医療 オーダーメイド医療と臨床検査、薬剤代謝と遺伝型</p> <p>第15回 遺伝学と生命倫理、ゲノム科学の発展と未来 出生前診断、遺伝カウンセリング</p>
科目の目的	遺伝学の基礎として、細胞の機能と構造、遺伝子・染色体の構造と働きを理解する。遺伝の法則、遺伝形式を概説し、染色体異常や遺伝病疾患とその遺伝子診断について学ぶ。さらに、遺伝学と生命倫理、遺伝医療の発展と将来展望について理解し学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子・染色体の構造と働きについて理解し説明できる。 ・遺伝と遺伝病について理解し説明できる。 ・細胞遺伝の基礎について理解し説明できる。 ・遺伝子診断の有用性と限界、遺伝カウンセリング、生命倫理について理解し説明できる。
関連科目	臨床検査学総論、病理細胞検査学、血液検査学
成績評価方法・基準	定期試験70%、小テスト30%により成績を評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校生物の遺伝子・染色体を復習しておくこと。各回の授業内容について予習・復習を約1時間行い、理解しておくこと。
教科書・参考書	<p>教科書：「遺伝医学への招待」（南江堂）</p> <p>参考書1：「基礎から疾患までわかる遺伝学」（メディカル・サイエンス・インターナショナル）</p> <p>参考書2：「トンプソン&トンプソン遺伝医学」（メディカル・サイエンス・インターナショナル）</p> <p>参考書3：「一目でわかる臨床遺伝学 第2版」（メディカル・サイエンス・インターナショナル）</p>
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前連絡にて随時対応する。
国家試験出題基準	<p>Ⅱ - 16 - A, B, C</p> <p>Ⅱ - 35 - A, B</p> <p>V - 2, - B</p> <p>V - 2 - H, f</p> <p>Ⅵ - 10 - B, C, E, G</p>

履修条件・履修上の注意	特になし
-------------	------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
藤田 清貴			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 イントロダクション、免疫学序論：自己と非自己の識別，免疫に関与する細胞，組織，器官</p> <p>第2回 免疫システム概論：自然免疫，獲得免疫</p> <p>第3回 能動免疫と受動免疫、免疫寛容</p> <p>第4回 抗原：定義，分類，抗原性を発揮するための条件</p> <p>第5回 抗体：免疫グロブリンの構造，分類，特徴（1）</p> <p>第6回 抗体：免疫グロブリンの構造，分類，特徴（2）</p> <p>第7回 抗体：免疫グロブリンの多様性と抗原マーカー，一次免疫応答，二次免疫応答</p> <p>第8回 補体：定義，成分，活性化経路，臨床的意義</p> <p>第9回 感染症総論</p> <p>第10回 性感染症</p> <p>第11回 HIV感染症/AIDS：感染経路，診断，臨床的経過</p> <p>第12回 肝炎ウイルス：A型，B型，C型，D型，E型肝炎ウイルスの特徴，診断，臨床的経過</p> <p>第13回 アレルギー：I型，II型，III型，IV型アレルギーの発生機序，特徴</p> <p>第14回 自己免疫疾患：定義，分類，自己抗体と臨床的意義</p> <p>第15回 免疫不全症：B細胞不全症，T細胞不全症，複合型不全症の分類と特徴，二次免疫不全症の分類と特徴</p>
科目の目的	生体内防御応機構などの免疫のシステムの基礎知識，および免疫異常による疾患の特徴などを学ぶ。さらに，感染症の基礎知識，特徴，感染経路，臨床的経過などについても学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然免疫，獲得免疫について説明できる。 2. 免疫グロブリンの種類と特徴，および免疫応答について説明できる。 3. 補体の成分と活性化経路，および機能について説明できる。 4. 感染症，性感染症，HIV感染症の特徴，および感染経路について説明できる。 5. 肝炎ウイルスの種類と特徴について説明できる。 6. アレルギーの種類と特徴について説明できる。 7. 自己免疫疾患と自己抗体との関連性について説明できる。 8. 免疫不全症の種類，および特徴について説明できる。
関連科目	内科学，遺伝と病気，免疫検査学，微生物検査学，ウイルス検査学
成績評価方法・基準	中間テスト40%，定期試験40%，小テスト20%により成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。また，授業回数数の3分の1以上の欠席がある場合には試験成績は無効とみなす。試験形態は筆記試験とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間の予習・復習を行い理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：窪田哲郎，他：臨床検査学講座「免疫検査学」（医歯薬出版） 教科書：藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質—基礎から発見・解析法まで（医歯薬出版） その他，必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（fujita@paz.ac.jp）。
国家試験出題基準	VIII - 1 - A, B, C, D, E, F

	VIII - 3 - A, B, E, G, E
履修条件・履修上の注意	授業中は携帯電話の電源を切ること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
松澤 正			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションとは 定義、理念、歴史</p> <p>第2回 障害論 障害とは、障害のレベル、障害者の実態</p> <p>第3回 障害者の心理 障害者の心理的適応、特徴、障害受容</p> <p>第4回 リハビリテーションの構成 医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション</p> <p>第5回 医学的リハビリテーション 目的によるリハビリテーション、時期的リハビリテーション</p> <p>第6回 チーム医療 リハビリテーション医療の職種</p> <p>第7回 リハビリテーション医療の進め方 診断、情報収集、ケース会議</p> <p>第8回 地域リハビリテーション 地域リハビリテーションとは、地域リハビリテーションの施設</p> <p>第9回 リハビリテーションにおける評価学 評価とは、情報収集の方法、評価の種類</p> <p>第10回 リハビリテーションにおける治療学 リハビリテーションの治療手段、理学療法、作業療法、補装具療法</p> <p>第11回 教育的リハビリテーション 特別支援教育の歴史、特徴</p> <p>第12回 職業的リハビリテーション 職業的リハビリテーションとは、職業相談、職業評価、職業訓練、就職斡旋</p> <p>第13回 社会的リハビリテーション 社会的リハビリテーションとは、社会保障、社会保険、社会福祉</p> <p>第14回 寝たきり老人のリハビリテーション 寝たきり老人とは、寝たきり老人の実態、障害、リハビリテーション</p> <p>第15回 認知症リハビリテーション 認知症のリハビリテーション</p>
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師、臨床検査技師の位置付けや役割を理解させる。 【知識・理解】
到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師、臨床検査技師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	試験100%（レポートを課す場合もある）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。 1コマあたりの準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：使用しない（プリント教材を資料する） 参考書1：「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 参考書2：「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：臨床心理学

授業コード：4M058

英文科目名称：Clinical Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
森 慶輔			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンスと臨床心理学的援助の説明 講義全体の説明を行うとともに、課題レポートの詳細を説明する。また臨床心理学的援助とはどのようなものか説明する。</p> <p>第2回 臨床心理学とは① 人間の問題行動はどのように捉えられるのか、正常と異常の区別の観点から考える。</p> <p>第3回 臨床心理学とは② 人間の発達を概観し、発達段階と疾病・障害の関係について理解する。</p> <p>第4回 臨床心理学とは③ 保健医療領域における問題行動について、主に転移・逆転移と防衛機制の観点から理解する。</p> <p>第5回 臨床心理アセスメントの基礎① 臨床心理領域のアセスメントについて、その目的、方法と限界を理解する。</p> <p>第6回 臨床心理アセスメントの基礎② 日本で広く使われている心理検査について理解するとともに、いくつかの心理検査について実際に体験してみる。</p> <p>第7回 精神療法の基礎① S, Freudの精神分析について、その基本的な考え方を理解する。</p> <p>第8回 精神療法の基礎② 学習心理学と行動療法について、その基本的な考え方を理解する。</p> <p>第9回 精神療法の基礎③ 応用行動分析について、その基本的な考え方を理解する。</p> <p>第10回 精神療法の基礎④ 認知行動療法について、その基本的な考え方を理解する。</p> <p>第11回 精神療法の基礎⑤ C, R, Rogersのクライエント中心療法について、その基本的な考え方を理解する。</p> <p>第12回 精神療法の基礎⑥ 家族療法／短期療法について、その基本的な考え方を理解する。</p> <p>第13回 患者・家族の心理① 医学の発展が人間に及ぼす影響について視聴したDVDの内容を基に考える（例：出生前診断）。</p> <p>第14回 患者・家族の心理② 医学の発展が人間に及ぼす影響について視聴したDVDの内容を基に考える（例：終末期医療）。</p> <p>第15回 まとめ（既習事項の確認） 講義を振り返り、患者とその家族への医療従事者としての関わり方を考える。</p>
科目の目的	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な心理学的技術を習得する。ディプロマポリシーの「思考・判断」と関連する。
到達目標	臨床心理学の基礎的事項について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な心理学的技術を習得する。
関連科目	すべての科目と関連
成績評価方法・基準	期末試験（50%）、課題レポート（20%）と授業内でのコメントペーパー（30%）を総合して評価する予定である。課題レポートの詳細は授業内で説明し、希望者には課題レポートの評価を伝達する。コメントペーパーに記された感想や疑問については、次回の講義冒頭で紹介、解説するように努める。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	指示された内容に関する予習復習を行う（15時間）
教科書・参考書	教科書 特に指定しない 参考書 鎌田実「言葉で治療する」朝日新聞出版、2009年 その他は講義内で適宜紹介する
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室で対応）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
辻村 弘美			
北 朱美			

授業形態	講義（10回）、グループワーク（5回）		
授業計画	第1回	授業ガイダンス及び国際医療協力総論1 1. 国際協力の歴史とその変遷 被援助国時代から援助供与国になるまで 2. 日本の国際協力の流れ 二国間援助（無償資金協力、技術協力、有償資金協力）と多国間援助 3. 国際協力に関わる機関、GO、NGOなどの援助機関（JICA、厚生労働省、外務省、WHO、UNICEF、NGOなど）の役割について	
	第2回	国際医療協力総論2 1. なぜ国際協力が必要なのか ・世界のさまざまな格差 ・わが国が受けた支援 ・開発協力大綱（ODA大綱）の基本理念と原則 2. プライマリ・ヘルスケア（PHC）について ・PHCの基本原則と意義 ・PHCの展開と現状	
	第3回	国際医療協力総論3 1. ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs） ・保健医療分野における意義と重要性 ・MDGsの進捗状況、課題と展望 ・SDGsについて	
	第4回	国際保健医療の実際1 1. NGOにおける医療や環境への取り組み 2. 国際緊急援助活動	
	第5回	国際保健医療の現状及び課題1 1. 先進国と開発途上国について 2. 貧困とは 3. 栄養問題 4. 環境問題	
	第6回	国際保健医療の実際2 1. 国際協力活動、青年海外協力隊活動	
	第7回	国際保健医療の実際3 （外部講師による講義予定）	
	第8回	国際保健医療の現状及び課題2 1. 感染症について ・ポリオ、麻疹根絶活動 ・マラリア、下痢症、結核	
	第9回	グローバル社会と医療1（講義） 1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師や介護士の受け入れ問題、医療ツーリズムなど	
	第10回	グローバル社会と医療1（GW） 1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師や介護士の受け入れ問題、医療ツーリズム、その他のテーマを共有し、今後の課題などについてディスカッションと発表会を行う。	
	第11回	グローバル社会と医療2（GW） 1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師や介護士の受け入れ問題、医療ツーリズム、その他のテーマを共有し、今後の課題などについてディスカッションと発表会を行う。	
	第12回	グローバル社会と医療3（GW） 1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師や介護士の受け入れ問題、医療ツーリズム、その他のテーマを共有し、今後の課題などについてディスカッションと発表会を行う。	
	第13回	グローバル社会と医療4（発表会） 1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師や介護士の受け入れ問題、医療ツーリズム、その他のテーマを共有し、今後の課題などについてディスカッションと発表会を行う。	
	第14回	グローバル社会と医療5（発表会） 1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師や介護士の受け入れ問題、医療ツーリズム、その他のテーマを共有し、今後の課題などについてディスカッションと発表会を行う。	
	第15回	国際医療協力に必要な資質、国際医療協力への道、まとめ 1. 国際医療協力に必要な資質とは 2. 国際保健医療関係の仕事や教育機関 ・GO、NGOなどの紹介 ・国際保健医療関係の大学院	
科目の目的	国際協力の目的や意義を理解し、保健医療の視点から国際協力などのあり方を考えることを目的とする。カリキュラムマップの「態度」に該当する。		

到達目標	1. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 2. 国際保健医療協力の必要性とその対策が理解できる 3. 国際保健医療の現状及び課題が理解できる 4. 保健医療協力の現場で自分ができる国際協力活動とは何かを考えることができる
関連科目	関連する教養科目—地域ボランティア活動論 関連する専門基礎科目—多職種理解と連携、公衆衛生学、医療統計学
成績評価方法・基準	試験（80％）、グループワークとその発表（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容に関する事前・事後学習やグループワークの課題について、授業外の学習が必要。 事前学習や課題については、授業の中で説明や振り返りを行う。 授業外の学習時間として1コマあたり1時間程度を要する。
教科書・参考書	教科書：「国際保健医療学」日本国際保健医療学会（杏林書院） 参考書：「バッシュ国際保健学講座」ポールバッシュ（じほう） 「Where There Is No Doctor」David Werner with Carol Thuman and Jane Maxwell 「世界子供白書」（ユニセフ）等
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	IX章 公衆衛生学 5環境と健康 A地球環境 a地球環境問題 6健康の保持増進 A栄養保健 a栄養欠乏・栄養過剰 C母子保健 a母子保健の指標 8国際保健 A国際機関・医療協力 a世界保健機構〈WHO〉 b国際連合〈UN〉 c国際協力機構〈JICA〉 B世界の保健状況 a世界の人口 b死亡統計 c感染症の実態
履修条件・履修上の注意	日常生活の中でも国際保健や国際医療、国際協力に関する報道について興味をもって欲しい。 積極的にグループワークに参加できる学生を望む。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
石垣 宏尚			

授業形態	講義（12回）・実習（3回）
授業計画	<p>第1回 序論 病態を客観的に評価する手段としての機器分析の在り方について</p> <p>第2回 共通器具の原理・構造1 化学容量器・秤量装置の特徴、利用法について</p> <p>第3回 共通器具の原理・構造2 攪拌装置・恒温装置の特徴、利用法について</p> <p>第4回 共通器具の原理・構造3 保冷装置・滅菌装置の特徴、利用法について</p> <p>第5回 測光装置 分光光度計、炎光光度計、蛍光光度計の原理、特徴について</p> <p>第6回 顕微鏡 各種顕微鏡の原理、操作法について</p> <p>第7回 電気化学装置 pHメータの原理、特徴について</p> <p>第8回 分離分析1 遠心分離装置、電気泳動装置の原理、特徴について</p> <p>第9回 分離分析2 各種クロマト装置の原理、特徴について</p> <p>第10回 実習1 顕微鏡の講習</p> <p>第11回 実習2 マイクロピペットの講習</p> <p>第12回 実習3 マイクロピペットを用いた希釈</p> <p>第13回 生化学 全自動生化学分析装置について</p> <p>第14回 血液 自動血球計数装置について</p> <p>第15回 まとめ 各回のポイントについて</p>
科目の目的	臨床現場で使用されている分析機器の原理・構造を学び、検査に必要な基本的な知識の習得を目的とする。 (知識・理解)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共通器具の原理、操作法、使用上の注意点を説明できる。 2. 分析機器の原理、操作法、使用上の注意点を説明できる。 3. 分離分析機器の臨床検査への応用を学ぶ。
関連科目	医用電子工学
成績評価方法・基準	レポート20%、定期試験80%により成績を評価する。試験形態は筆記試験とし、100点満点のうち60点以上を合格とする。 レポートは返却し、解説を行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について30分程度教科書を読んでおく。
教科書・参考書	教科書：臨床検査学講座 検査機器総論（医歯薬出版）
オフィス・アワー	講義終了後、質問を受け付ける。
国家試験出題基準	X-1-A, X-1-B, X-2-A-a, X-2-A-b, X-2-B-a, X-2-B-b, X-2-B-c, X-2-C-a, X-2-C-b, X-2-C-c, X-2-C-d, X-2-D-a, X-2-D-b, X-2-E-a, X-2-E-b, X-2-F-a, X-2-F-b, X-2-F-c, X-2-G-a, X-2-G-b, X-2-H-a, X-2-H-b, X-2-H-c, X-2-H-d, X-2-I-a, X-2-I-b, X-2-J-a, X-2-J-b, X-2-J-c, X-2-J-d, X-2-J-e, X-2-J-f, X-2-J-g, X-2-K-a, X-2-K-b, X-2-K-c, X-2-K-d, X-2-L-a, X-2-L-b, X-2-L-c
履修条件・履修上の注意	教科書を必ず持参する。 健康食品管理士 必修科目（基礎）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
藤本 友香			

授業形態	教科書、スライド、資料等を用いての講義および実習を行う 講義(16) 実習(14)		
授業計画	第1回	医動物学総論 医動物学の基礎知識を学ぶ ～医動物学Medical Zoologyとは～	
	第2回	線虫(1) 線虫類総論、回虫、アニサキス、蟯虫等について	
	第3回	線虫(2) 鉤虫、広東住血線虫、糞線虫等について	
	第4回	線虫(3) 顎口虫、糸状虫、旋毛虫等について	
	第5回	吸虫(1) 吸虫類総論、肝吸虫、横川吸虫等について	
	第6回	吸虫(2) ウエステルマン肺吸虫、宮崎肺吸虫、肝蛭等	
	第7回	吸虫(3) 日本住血吸虫、マンソン住血吸虫、ビルハルトツ住血吸虫等について	
	第8回	中間試験 線虫、吸虫の確認試験を行う	
	第9回	条虫(1) 条虫類総論、広節裂頭条虫、日本海裂頭条虫等について	
	第10回	条虫(2) マンソン裂頭条虫、無鉤条虫、有鉤条虫等について	
	第11回	条虫(3) 単包条虫、多包条虫、小形条虫等について	
	第12回	原虫(1) 原虫類総論、赤痢アメーバ、その他消化管寄生アメーバ等について	
	第13回	原虫(2) ランブル鞭毛虫、臈トリコモナス、トリパノソーマ等について	
	第14回	原虫(3) リーシュマニア、トキソプラズマ、マラリア等について	
	第15回	衛生動物(1) 衛生動物総論	
	第16回	衛生動物(2) ダニ、ブユ、アブ、ハエ、ノミ、シラミ、ネズミ等について	
	第17回	検査法について 寄生虫の検査法に関する講義	
	第18回	実習オリエンテーションおよび顕微鏡の取り扱い 実習注意事項の説明と顕微鏡の取り扱い説明	
	第19回	寄生虫卵観察(1) 回虫卵・蟯虫卵の顕微鏡による観察	
	第20回	生理食塩水の作成 実験試薬の作成	
	第21回	寄生虫卵観察(2) 吸虫卵等の観察	
	第22回	直接塗抹法 直接塗抹法の基本操作技術の習得	
	第23回	寄生虫卵観察(3) 条虫、原虫等の観察	
	第24回	試薬作成 実習に使用する試薬の作成	
	第25回	遠心沈殿法 遠心沈殿法(AMSIII法)の基本操作技術の習得(2)	

	<p>第26回 遠心沈殿法 遠心沈殿法 (AMSIII法) の基本操作技術の習得 (1)</p> <p>第27回 浮遊法 浮遊法の基本操作技術の習得</p> <p>第28回 アニサキス 魚類に寄生するアニサキスの観察 (1)</p> <p>第29回 アニサキス 魚類に寄生するアニサキスの観察 (2)</p> <p>第30回 まとめ 国際機関・国際協力について。医動物学講義および実習のまとめ</p>
科目の目的	<p>医動物学 (Medical zoology) は、人体の健康に病害を与える動物を対象とした学問分野である。本科目では臨床検査技師としての専門基礎知識を学ぶことを目的とし、前述の動物の分類、形態、生活史、病害、診断法、感染予防法などを学習する。 ディプロマーポリシーの【知識・理解】を修得する。</p>
到達目標	<p>1. 寄生虫の分類、生活史、病害、診断法について説明できる。 2. 寄生虫の虫卵の鑑別ができる。 3. 人畜共通感染症について理解する。 4. 各寄生虫に適した検査法を理解する。</p>
関連科目	解剖学、微生物検査学、感染と免疫、遺伝子検査学
成績評価方法・基準	<p>試験 (小試験・中間試験・期末試験) 70%、実習レポート (30%) で評価を行う。 レポートは次週に返却し、レポートの解説を行う。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>医動物学の準備学習に必要な時間は2時間程度とする。 前回授業で行った内容の中から小試験を行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：吉田幸雄、有菌直樹 「医動物学 第6版」 (南山堂) 参考書：吉田幸雄、有菌直樹 「図説人体寄生虫学 改訂8版」 (南山堂)</p>
オフィス・アワー	<p>講義終了後に質問を受け付ける。個別相談は事前の連絡によって随時対応する。(fujimoto@paz.ac.jp)</p>
国家試験出題基準	<p>1. 1-A-a, 1-B-a, 1-B-b, 1-B-c, 1-C, 2-A 2. 1-D-a, 1-D-b, 1-D-c 1-D-d, 2-B-a, 2-B-b, 2-B-d 3. 1-D-e, 1-D-f, 1-D-g, 1-D-h, 2-C-c 4. 1-D-i, 1-D-j, 1-D-k, 1-D-l 5. 1-E-a, 1-E-b 6. 1-E-c, 1-E-d 7. 1-E-e, 1-E-f 8. 1-F-a, 1-F-b, 1-F-c 9. 1-F-d, 1-F-e, 1-F-f 10. 1-F-g, 1-F-h, 1-F-i, 2-D-a, 2-D-b 11. 1-G-a, 1-G-b, 1-G-c, 2-B-c 12. 1-G-d, 1-G-e, 1-G-f 13. 1-G-g, 1-G-h, 1-G-i, 1-G-j, 2-C-a, 2-C-b 14. 1-H-a, 1-H-b 1-H-c 15. 1-H-d, 1-H-e, 1-H-f IX章 公衆衛生学 8. 国際保健 A 国際機関・国際協力</p>
履修条件・履修上の注意	<p>授業には必ず教科書を持ってくること。</p>